

井上義行
編纂

陸軍刑法釋義

東京圖書館

函二四	門新
架五	部一一
號	類

036332-001-1

1-11

陸軍刑法釋義

井上 義行 / 著

M15

BBQ-0033



井上義行編纂

陸軍刑法釋義

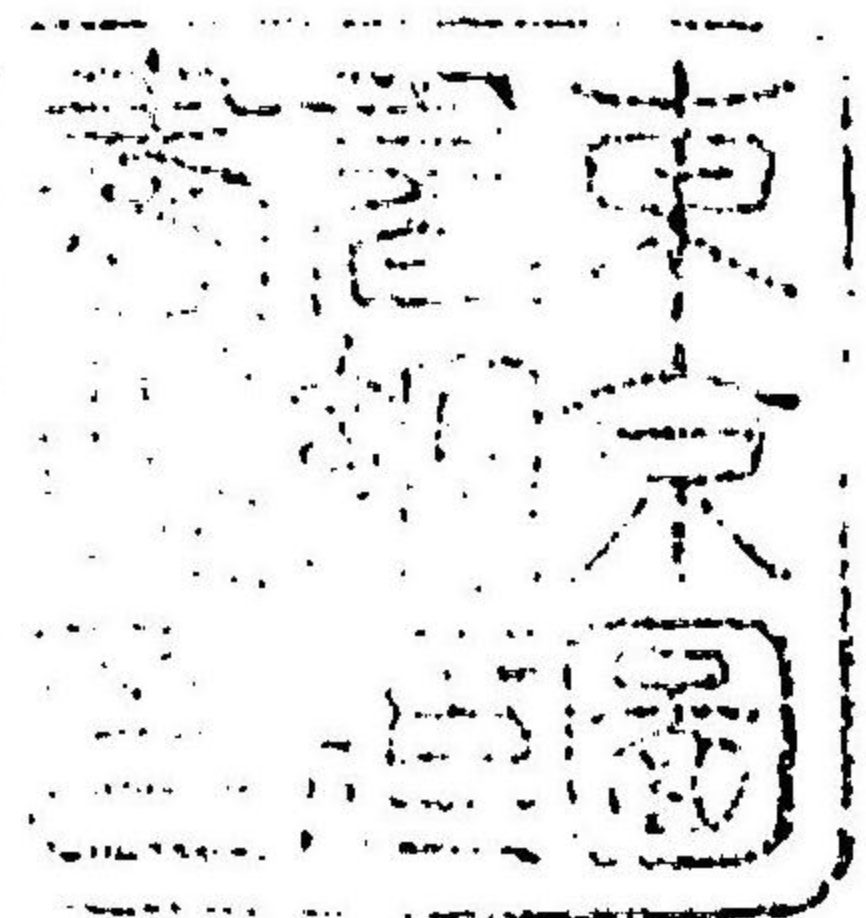
明治十五年二月
二日版權免許

偕行社藏板

惟

明

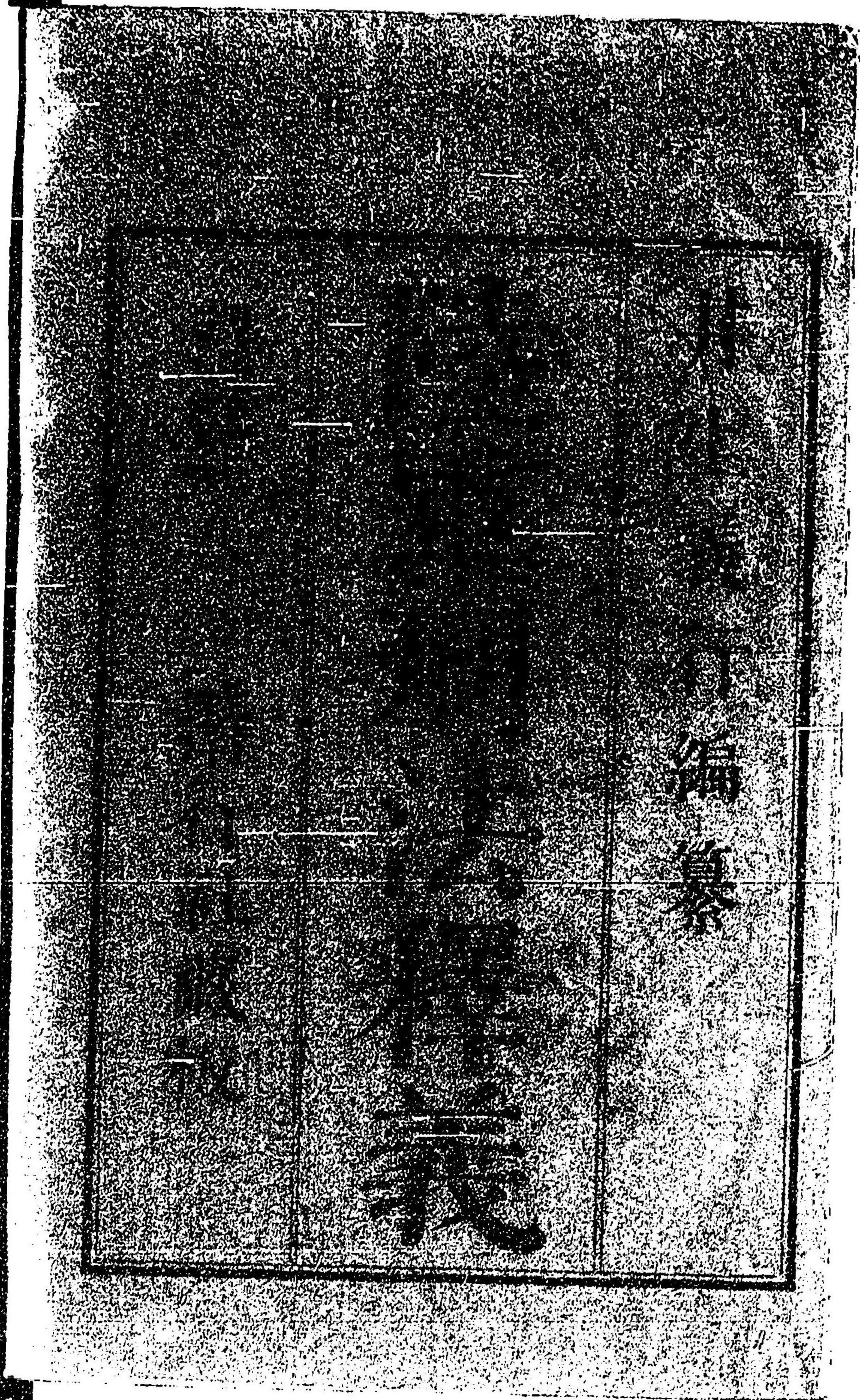




惟

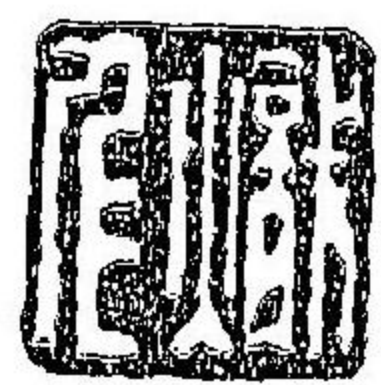


明



克
允

斌仁顯



序



軍旅之要在於紀律之不紊安
在其為軍旅周易有之師出以
律善乎言也我朝刑律風堂於
大寶二年然軍人之克平時古帶
人無異戰時聽大將專決如一言

軍律未嘗有也明治中興百廢
維新康年頒新律陸海軍律
以其明年成當時草創條項未
備帶律已有癸酉改定乙亥以
來所冊又多軍律更正如壬寅子
之夏丁丑會西南之役修閱久

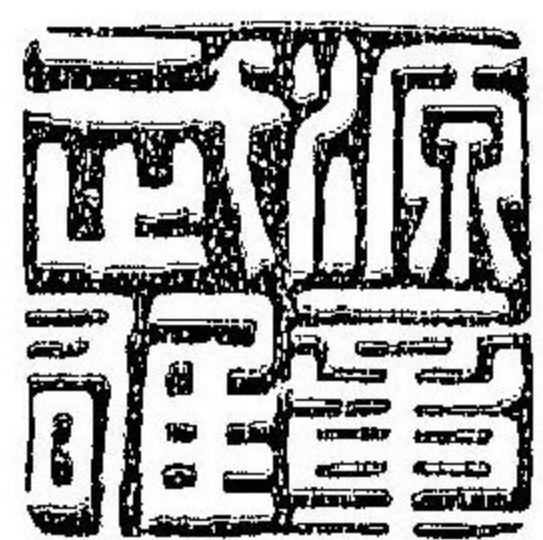
之既而常律軍律皆有更新
之舉概取歐米之制陸軍刑律
多援佛國案以普瑞務明考紀
軍紀之別以維持軍紀為主庚
辰七月竣功五月開審查局取捨
增損八月奏進其十月及庚辰三

月一再之元武院議之十有百頒
行海內支我陸軍首制已鑿
加以此律則平戰兩時世世
否滅之也也陸軍步兵大尉
軍陸軍裁判權評事正七位
勳五等并上義行民常講法

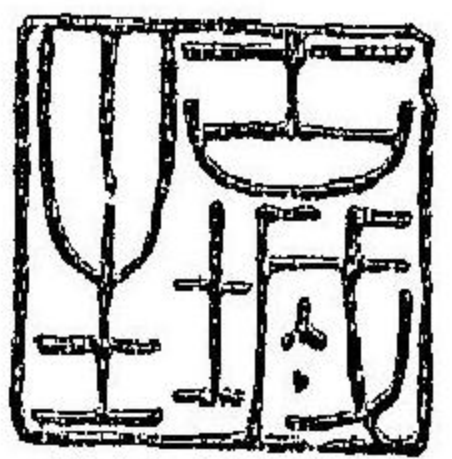
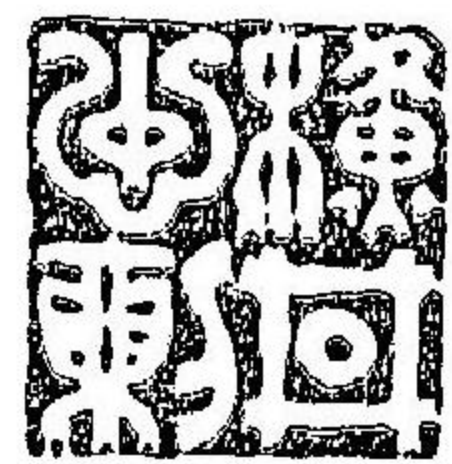
學軍統軍律丙子以迄革命
更新其以元武院也以兼右政
官權少書記官為內閣委員前
後六年夙夜匪懈勉所裨補不
越又作註釋勅卷逐條編晰使
人一讀瞭然遂舉主稿附以子偕

行社其嘉惠於人而不敢自利可
謂難矣余亦與更新之事始終始
相俱能知其勤苦鑽研益信此
解之不誤迺者社負相謀刻之
余方為本社幹事長一言一任
不可得矣乃書此弁之

明治十五年壬午一月陸軍少將
魚陸軍少輔正五位勳三等
小澤武雄撰



横井忠直書



序

維新之初置兵部省統轄海陸
軍明治四年該省撰定海
陸軍刑律上奏經 制可而頒
行軍有特別刑法擬於此
伏其律本於古而率之間且混

全陸海條項錯雜漸為不詳且
措辭不精矧竅頗多時刑部
之律唯有新律綱領對比悉
照判司多因擬律聚訟不歇
亦求陸軍省有新法編續
未始涉一紀本軍陸軍刑法

告成其治罪法亦就重查一書
風俗所煽之運進連勢則然
也若常律綱領之後有改定律
例後亦歷多少變更而新刑法
宗施正邇來月時呼明法典立
之今備蓋不要多日自今而后在判

司之職主按眾擬律亦申至遺憾
矣惟支律之簡易主義概擬漢
者不審所包之度量之而合之形
質則未免已軍之請是井上
大尉釋義之撰所以不可也且
夫軍人刑濫固屬特別法旨趣

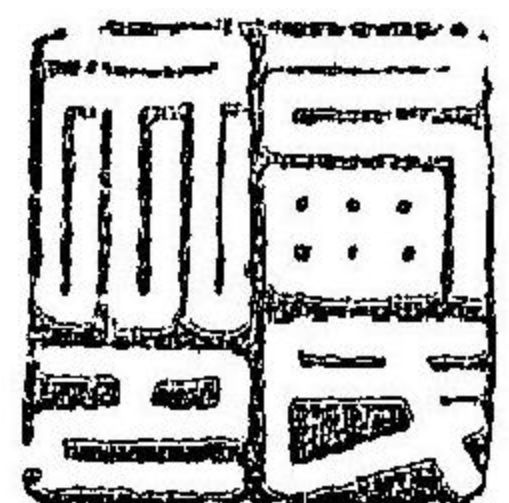
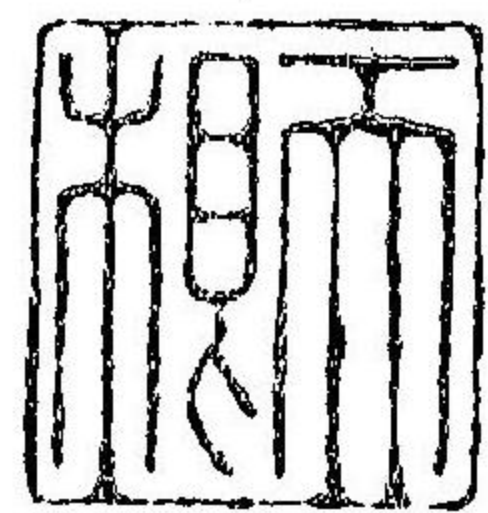
存遠異常律當入不得其富
美之觀未易定規也況講究軍
律者真講究者律者自有所守
守若夫常人苟系四里法網出可
也未必通曉刑法條款故講究
者率限判日而判句則為專門

官之精通練磨不為甚難也軍
律則不然凡下士以上各級將校照
罪輕之階級輕次交互為軍法會
議之判司令支以上各級將
校以攻伐戰鬥為主本務又重
判司之任是豈可遽以專門判

司之精通練磨而望之乎故
為解釋而不厭詢詳密也本
律之編纂大尉嘗測之又任
軍查委員乃釋義之釋得肯
綏之志也是豈可為帳中秘
書而已乎哉頃者偕行社為將謀

而付印刷以公之也余嘉大尉之
勞不徒而將校讀本律為裨益
不淺也為序

明治四年十二月 正五位 西園撰

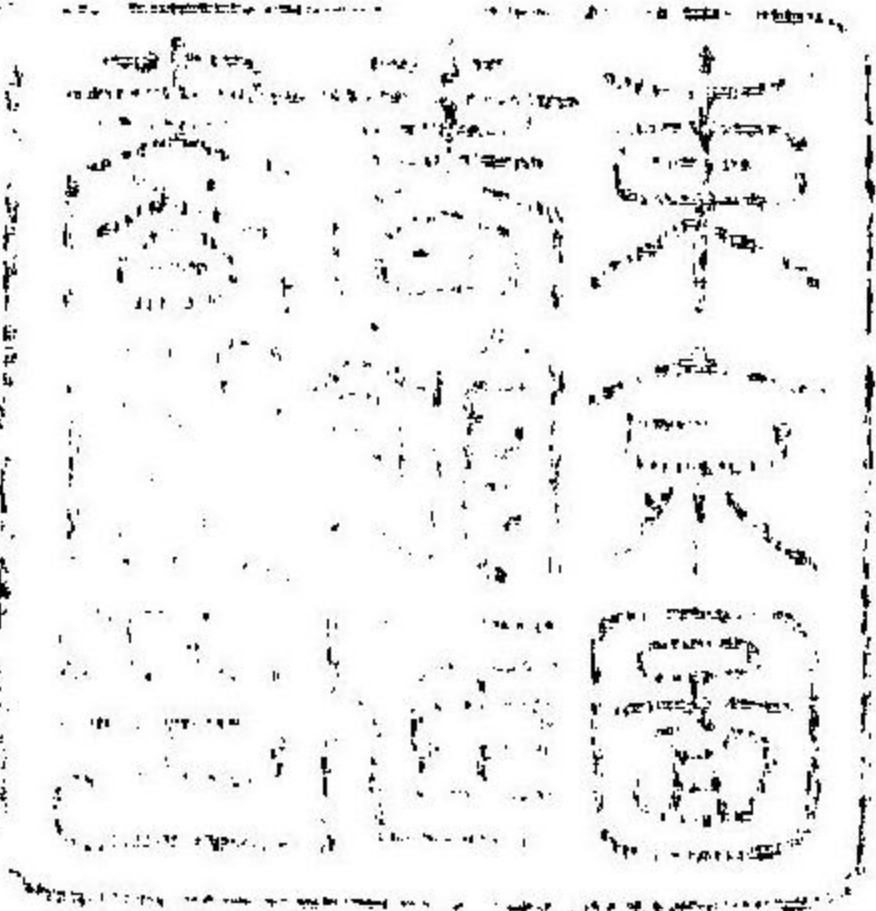


授六位秋月新太郎書

陸軍刑法釋義

例言

一法理詳ニシテ然ル後其得失議スヘク其改良
圖ルヘシ若シ然ラヌシテ其非ヲ議シ其是ヲ
論ス是レ所謂捕風捉影耳果シテ何ノ益アラ
シヤ義行此ニ感アリ乃チ自ラ揣ヲス一書ヲ
編ス題シテ陸軍刑法釋義ト曰フ鄙意反覆討
論此ニ至ル所以ノモノヲシテ永ク泯滅ニ歸
シ陸軍刑法ヲ是非スル者ヲシテ其正毅ヲ誤
ラシメシコトヲ恐ル、ニ在リ讀者此レニ因テ
而其旨趣ノ在ル所ヲ求レハ則未タ必スシモ



少補無ンハアラヌ

一 讀書ノ要綱領ヲ得ルニ在リ綱領既ニ舉レハ細目之ニ隨フ是レ自然ノ勢也是ヲ以テ例言ノ首メニ於テ全體ノ要領二三ヲ掲ケ以テ讀者ニ便ス

一 軍律事ヲ以テ主ト爲ス所謂軍事犯是也故ニ軍律ヲ作ル先ツ軍事犯常事犯ノ別ヲ明カニセサルヘカラス軍事犯ニ二種アリ一ハ專ラ軍隊ニ關涉スル者一ハ軍隊ト社會ニ關涉スル者是也其專ラ軍隊ニ關涉スル者ノ如キハ之ヲ分ツ甚タ難カラスト雖モ彼此相關スル

モノニ至テハ則チ頗ル分ナ易カラサルモノアリ請フ下文ニ於テ本律軍事犯ヲ定ムルノ標準ヲ略言シ以テ之ヲ分ツ所以ヲ示サントス一ニ曰ク軍人ニ非サレハ犯ス能ハサル者抗命逃亡ノ類ノ如キ是也二ニ曰ク軍人ニ在テ殊ニ懲戒スヘキ者反亂各條及ヒ上官ニ對スル暴行ノ類ノ如キ是也三ニ曰ク軍民共ニ犯スヘク其刑亦彼此異同アルヘカラサル者哨兵ニ對スル暴行罵詈軍用物件放火破壞ノ類ノ如キ是也抑一ハ純然タル軍事犯所謂專ラ軍隊ニ關涉スル者タリ故ニ毫モ常律ト關

係ナシト雖モ二三ニ至テハ則常事犯ノ性質
 ナ帯ル者相交ル所謂軍隊ト社會ニ關涉スル
 者タリ故ニ常律ト關係スル者亦尠カラス而
 彼此懲戒ノ旨趣保護ノ主眼素ヨリ同シカラ
 サルヲ以テ彼ニ在テ嚴刑ヲ要セサルモ我ニ
 於テハ峻罰ニ處セサルヲ得サル者アリ此ノ
 如キハ取テ以テ軍事犯ト爲シ罪刑當ヲ得セ
 シム其レ然リ故ニ常律既ニ罪ト爲シ其刑ヲ
 掲クルモノニシテ軍律亦之ヲ掲ケ軍事犯ト
 爲ス者ハ要スルニ常律ノ刑輕ク軍紀ヲ維持
 スルニ足ラサルモノ也是レ本律軍事犯ヲ定

ムル所以ノ標準也其詳細ノ如キハ反亂放火
 其他各條釋義ノ文中ニ詳ナルヲ以テ復々贅
 セス

一軍律ヲ設クル所以之ヲ要スルニ軍紀ヲ維持
 シ軍隊ヲ保護スルニ在リ故ニ害ノ大小輕重
 ヲ量リ權衡ヲ定ム夫ノ德義ニ背クノ淺深ニ
 至テハ必スシモ計較セサル也常律ハ德義ニ
 背クノ淺深社會ヲ害スルノ大小ヲ較量スル
 ヲ以テ刑ノ輕重ヲ定ムルノ基本トス其罪事
 ヲ定ムル亦軍律ハ人爲法ニ出ル者多ク常律
 ハ自然法ニ原スルモノ多シ是レ二律異同ノ

要領トス且夫レ生ハ人ノ欲スル所自由ハ人ノ好ム所而ルニ一タヒ軍籍ニ入レハ其自由ヲ奪ヒ又驅テ必死ノ地ニ出入セシム故ニ軍人タル者皆生ヲ舍テ義ヲ取ルノ人ニ非サルヨリハ之ヲ待ツニ嚴刑ヲ以テセサルヲ得サルモノアリ是レ常律ニ比シ死刑ノ多キ所以ニシテ亦已ムヲ得サルニ出ツ即軍律ノ軍律タル所以也

一我古法慣例ノ取ルヘキ者ヲ取リ他邦法典ノ依ルヘキ者ヲ撰ミ之ヲ事實ニ徴シ之ヲ經驗ニ質シ之ヲ人情世態ニ參シ以テ罪刑當ヲ得

懲戒其度ニ適セシメント欲ス是レ本律編纂ノ主眼タリ然リ而人知世態賤々息マス故ニ此法典ヲシテ千載不朽一モ改作スル所ナカラシメント欲スルハ固ヨリ立法者ノ期スル所ニ非サルヲ知ル然リト雖モ其綱領ノ如キハ輒ク動カスヘカラサルモノアリ千載ノ下猶舊礎ヲ五丈原上ニ觀ルヲ得ルハ義行ノ竊カニ信スル所又竊カニ望ム所也
一此書余カ手記及ヒ記臆スル所ニ於テ衆議ノ一ニ歸スル所ト信スル者ヲ輯メテ之ヲ爲ス力メテ一己ノ私見ヲ插マス只立案ノ趣旨ヲ

失フヲ之レ恐ル然リト雖モ人其見ル所ニ蔽
ハレ知ラス識ヲス正理ヲ誤ルニ至ルハ往々
免カレサル所故ニ余カ信スル所素ヨリ誤謬
ナキ能ハス其手記スル所亦遺脱ナキヲ保セ
ス此ノ如キハ異日補正スル所アルヘシ讀者
亦幸ヒニ是正ヲ賜ヘ

一此書軍律ト曰ヒ本律ト曰フ皆陸軍刑法ヲ指
ス普通刑法ト曰ヒ常律ト曰フ皆改正新刑法
ヲ指ス行文ノ便ニ從ヒ必スシモ一定ノ稱ヲ
用ヒス

一此書本文總則ニ於テ普通刑法ヲ適用スルモ

ノハ必ス其條下ニ全文ヲ掲ケ以テ讀者ニ便
ス

一此書專ラ解シ易キヲ主ト爲ス故ニ行文重複
ニ渉ルモノアリ鄙俚ニ免カレサル者アリ讀
者恕セヨ

明治十五年一月

井上義行識

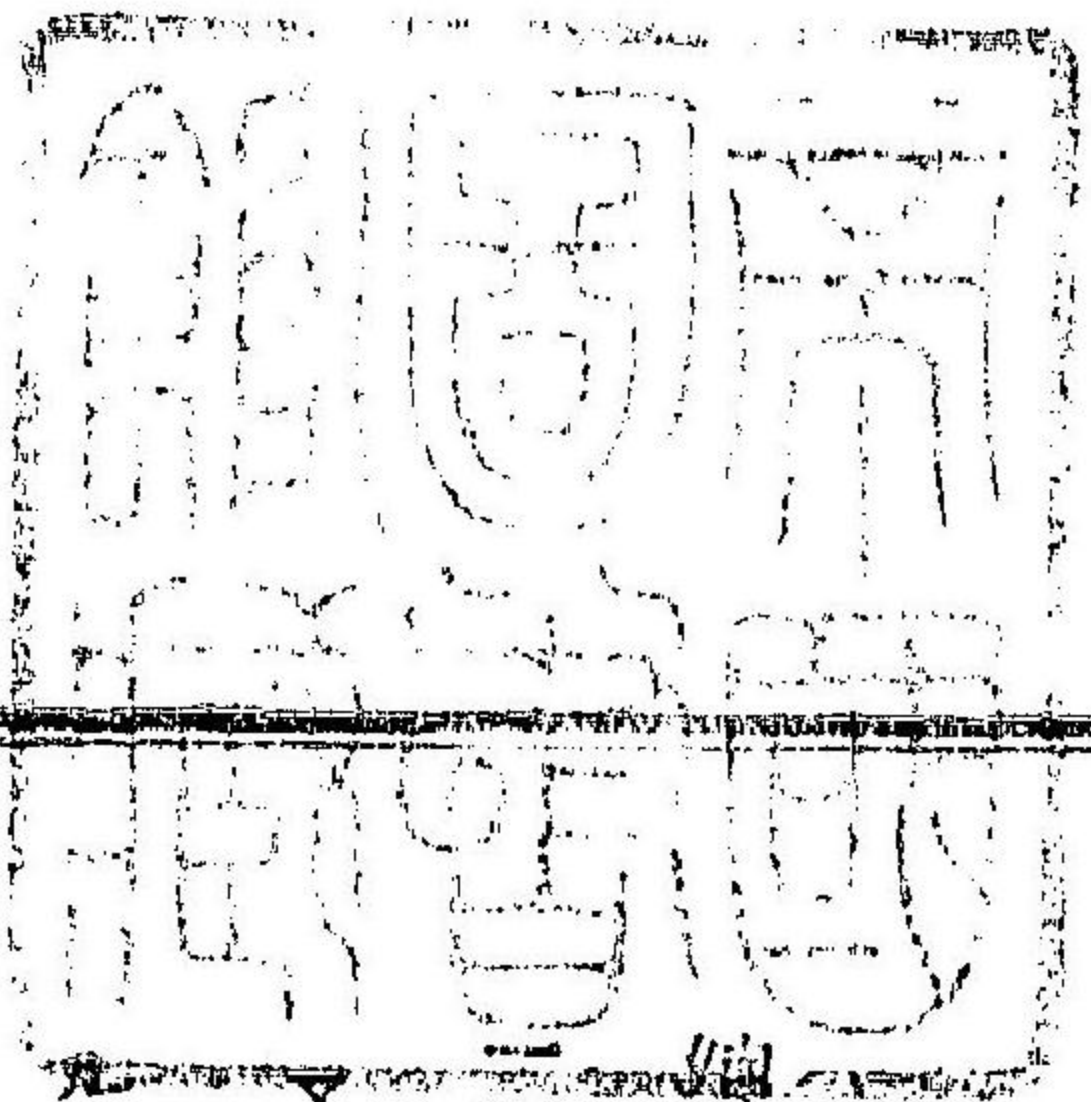
陸軍刑法釋義目錄

第一編	總則	自第一條至第四十九條
第一章	法例	自第一條至第十四條
第二章	刑例	自第十五條至第三十五條
第三章	加減例	自第三十六條至第四十五條
第四章	數罪俱發	第四十六條
第五章	數人共犯	自第四十七條至第四十八條
第六章	未遂犯罪	第四十九條
第二編	重罪輕罪	自第五十條至第一百二十四條
第一章	反亂	自第五十五條至第六十五條
第二章	抗命	自第六十六條至第六十八條

第三章	擅權	自第六十九條
第四章	辱職	自第七十二條
第五章	暴行	自第七十六條
第六章	侮辱	自第九十三條
第七章	違令	自第九十七條
第八章	逃亡	自第二百二十七條
第九章	詐偽	自第二百二十四條

陸軍刑法釋義卷之一

井上義行著



第一編 總則

總則凡テ六章全編ヲ總管スル原則ヲ掲ク第
 二編ニ掲クル所ノ如ク其關涉一事一條ニ止
 ル者ト同シカラス故ニ人民素ヨリ知ラサ
 ヘカラスト雖モ法官罪ヲ定メ刑ヲ擬スル
 ニ於テ殊ニ暗熟セサルヘカラサルノ諸則ト
 ス

第一章 法例

法例凡テ十四條罪ノ種類刑ノ効用身分官職

ノ定稱刑法ノ權限等全體ニ關涉スル所ノ例
規ヲ掲ク

第一條 此刑法ニ於テ罰ス可キ罪別テ二種ト
爲ス

一 重罪

二 輕罪

本條ハ罪ノ種類ヲ定ム重罪トハ第十六條ニ
掲クル所ノ刑ヲ當スル者ヲ云ヒ輕罪トハ第
十七條ニ掲クル所ノ刑ヲ當スルモノヲ云フ
罪ノ種類ヲ分ツテ重輕ノ二ト爲ス所以ノモ
ノ何ソヤ加重減輕未遂罪其他罪事ノ輕重ニ

從ヒ之カ處分ヲ異ニセサルヘカラサルモノ
アリ而犯罪ノ事タル千狀萬態豫シメ其種類
ヲ定メス各情事毎ニ其異例ヲ示ス如キアラ
ハ事ニ從フ者迷ヒ易ク法ヲ立ル者煩ニ困ム
故ニ刑名ノ輕重ヲ以テ罪ノ輕重ヲ定メ刑名
ノ如何ヲ見テ罪ノ輕重ヲ知ラシム實際ノ便
益尠カラサルヲ以テナリ
刑名ヲ以テ罪ノ輕重ヲ定ムル上ニ説ク如シ
ト雖モ犯事ハ本ナリ刑ハ末ナリ故ニ其輕重
ヲ定ムルハ罪事ノ輕重ニ基ツカサルヲ得ス
而某情事ハ重シ某情事ハ輕シト爲スハ一ニ

立法官虚心ノ權衡ヲ以テ其道德ニ背クト社
會ヲ害スルノ大小ヲ量リ之ヲ定ムルニ在リ
而道德ニ背ク甚シクシテ害ハ則チ小ナル者
アリ害極メテ大ニシテ道德ニ背ク甚シカラ
サル者アリ普通刑法國事犯常事犯ノ各條ヲ
以テ相比照スレハ其別自ラ昭々タラン陸軍
刑法ハ道德ニ背ク甚シカラスシテ害ノ極メ
テ大ナル者多シ故ニ其輕重ヲ定ムル害ノ大
小ヲ主トスル者七分ニ居ル國事犯ノ罪ト稍
其旨ヲ同ウス

第二條 此刑法ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホ

スヲ得ス

若シ所犯頒布以前ニ在テ未タ判決ヲ經サル者
ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷ス

本條別ツテ二項ト爲ス第一項ハ此刑法ノ効
既往ニ及ホサ、ルヲ云ヒ第二項ハ其變例時
アリテ既往ニ及ホスノ事アルヲ云フ抑刑法
ヲ設クル所以之ヲ要スルニ人々非理ノ行爲
ヲ戒シメ社會ノ秩序安寧ヲ保護スルニ在リ
故ニ豫シメ法ヲ設ケ其爲スヘカラサルノ行
爲ヲ揭ケ而之ニ加ルノ刑罰ヲ示シ之ヲ天下
ニ頒テ以テ其犯スヘカラサルヲ知ラシム是

ヲ以テ法律正條アルモノニ非サレハ之ヲ罰
スルヲ得ス各人既得ノ權ヲ害スルヲ得サル
ヲ以テナリ本條其既往ニ及ホストヲ得サル
ノ理亦之ト其歸ヲ一ニス而本條ヲ設ケテ正
條ナキモノヲ罰スルヲ得サルノ條即チ普通
刑法第二條ト相應スルモノヲ設ケサルハ何
ツヤ縱令之ヲ設ケサルモ固ヨリ之ヲ罰スル
ヲ得ス到底蛇足ニ屬スルヲ以テナリ何トナ
レハ則チ此刑法掲クル所某ノ事ヲ爲ス者ハ
何ノ刑ニ處スルノ文耳初ヨリ比附加減ヲ許
サス且舊法ノ如ク不應爲等ノ條ナク況ヤ治

罪法法律正條ナキモノハ檢察官公訴ヲ行フ
ヲ得ス判官刑ヲ擬スルヲ得ス其正條ナキノ
行爲ヲ罰スルヲ得サル固ヨリ論ヲ待タサル
ナリ而ルニ本條ハ則チ之ト異ナリ本條ヲ設
ケサレハ則チ今日設クル所ノ法律昨日ノ行
爲ヲ罰スルヲ得ルヤノ嫌アリ且其第二項ノ
如キ舊法ノ酷ヲ改メ新法寛ニ從フ等既ニ社
會ノ認メテ不當ト爲ス者ヲ以テ人ヲ懲戒ス
ル所以ノ具ト爲スノ理ナキヲ以テ其效既往
ニ及ホサルヲ得ス而之ヲ明記セサレハ執
法者適從スル所ヲ知ラス犯者冤ヲ吞ムノ事

ナキヲ保ツ能ハス是レ則チ彼此理稍同ウシ
テ而要不要ノ別アル所以ナリ

第三條 軍人ト稱スルハ將官及ヒ同等官上長
官士官下士諸卒ヲ謂フ

本條ハ此刑法ニ於テ稱シテ軍人ト爲ス者ノ
何者タルヤヲ詳ニスルナリ抑陸軍刑法主ト
スル所軍人ノ犯罪ヲ懲戒スルニ在リ而軍人
中職守責任ノ同シカラサルニ因リ特ニ刑ヲ
蒙リ其他ニ及ホサ、ルモノ亦頗ル多シ故ニ
軍人軍屬司令官將校等ノ稱呼ヲ詳ニシ以テ
各自此法律ノ治下ニ在ルヲ知リ自ヲ知ヲサ

ルノ行爲ニシテ法ニ觸ル、ノ事無カラシメ
且法官事ニ臨ミ岐ニ迷フノ事ナク隨テ無辜
舞文ノ害ニ罹リ兇奸僥倖刑ヲ免ル、ノ事ナ
カラシムルナリ○將官トハ大將中將少將ヲ
謂ヒ同等官トハ即チ將官ノ同等官會計監督
長軍醫總監等ヲ謂ヒ上長官トハ大佐中佐少
佐及ヒ會計部軍醫部馬醫部等ニテ之ト官等
ヲ同ウスル者ヲ謂ヒ士官トハ大尉中尉少尉
及ヒ會計部軍醫部馬醫部等ニテ之ト官等ヲ
同ウスル者及ヒ准士官等ヲ謂フ下士諸卒ハ
本文既ニ之ヲ詳ニシ別ニ解ニ須ツ所ナキヲ

以テ之ヲ略ス
或ハ日本條軍人ノ稱呼ヲ正ス乃チ軍人此法
律ノ治下ニ免レサル毫モ疑フ所ナシト雖モ
若シ軍人入監中抗命暴行逃亡其他本律ニ揭
クル所ノ罪ヲ犯ス者猶ホ本律ヲ以テ其罪ヲ
論スヘキヤ否ヤ少シク疑ヒナキ能ハス敢テ
問フ曰ク縱令入監中ト雖モ裁判確定マテハ
之ヲ罪人視セサルハ治罪ノ原則故ニ其服章
ヲ褫クヘカラス其待遇亦已決囚徒ト異ニセ
サルヲ得ス其レ然リ故ニ猶本律ヲ以テ其罪
ヲ論スル固ヨリ其所ナリト雖モ一旦裁判確

定スレハ則チ衣服坐臥業務總テ囚徒ヲ以テ
之ヲ遇ス而ルニ其罪ヲ論スルニ至リ獨リ軍
人ヲ以テ之ヲ視ルノ理萬之レアルヘカラス
故ニ一般囚徒ノ犯罪ト同ク常律ヲ以テ其罪
ヲ論スルナリ以上或者ニ答ルノ言昭々理ノ
見易キモノ之カ辯ヲ要セサル如シト雖モ或
者既ニ之ヲ疑フヲ以テ視ルトキハ世或ハ或
者ノ疑フ所ヲ疑フ者ナキヲ保ツ能ハス故ニ
此ニ贅ス讀者本條ノ釋義ニ切ナラサルヲ異
ムナカレ

第四條 軍屬ト稱スルハ陸軍出仕ノ文官其他

總テ宣誓若クハ讀法ノ式ニ由リ陸軍ニ從事スル者ヲ謂フ

本條ハ軍屬ノ稱呼ヲ定ムルナリ抑軍屬ノ稱タル極メテ廣ク前條ノ如ク定名ヲ掲ケテ之ヲ定ムルヲ得ス故ニ宣誓讀法ノ式ヲ用ヒ之ヲ區別ス宣誓讀法ノ式ヲ受ケ陸軍ニ從事スル者ハ身ヲ陸軍刑法ノ治下ニ委シ自ヲ甘シテ約束ニ從フナリ故ニ其式ヲ受ケサル者ハ何等ノ職務ニ從事スルモ此刑法ニ問セサルナリ○宣誓式ハ概テ出仕ノ文官ニ適用シ讀法式ハ使丁軍夫等ノ類ニ適用スル慣例トス

第五條 司令官ト稱スルハ一軍一團其他一部隊ト雖モ總テ其司令ニ任スル者ヲ謂フ

本條ハ司令官ノ稱呼ヲ定ムルナリ抑陸軍ノ制度司令官ヲ以テ稱スル者ハ鎮臺司令官營所司令官衛戍司令官後備軍司令官等ニ止マリ其他ハ皆何團長何隊長ヲ以テ之ヲ稱ス故ニ本律亦何長ヲ以テ稱シ司令官ノ稱呼ヲ用ヒサルヲ以テ允當ト爲スヘキ如シト雖モ實際然ル能ハサル者アリ何トナレハ則テ本律所謂司令官ナル者ハ時ノ景況ニ因リ變更恒ナク豫シメ何長ヲ以テ一定スルヲ得サルナ

リ例へハ一聯隊敵ニ降ル第七十三條ヲ以テ其罪ヲ論スル者ハ聯隊長一人耳大隊長以下與カラヌ若シ一旅團之ヲ犯ス其罪ニ坐スル者ハ旅團長耳聯隊長ハ與カラサルナリ其他司令官ノ罪ヲ揭クル者皆此類トス故ニ所謂司令官ナル者ハ都テ爲ス所ノ事ニ於テ全權ヲ有スル者ナリ其時ニ隨テ變シ稱スルニ一定ノ目ヲ以テスル能ハサル此ノ如シ而ルニ強テ之ヲ何長ト記セント欲スルトキハ各條毎ニ解釋ヲ併セテ之ヲ記セサルヲ得サルニ至リ而遂ニ其レヲシテ明瞭ナラシムル能ハ

ス是レ本律司令官ヲ以テ稱シ何長ノ名ヲ用ヒサル所以ナリ○一軍ハ軍團ヲ合セテ成リ軍團ハ師團ヲ合セテ成リ師團ハ旅團ヲ合セテ成ル所謂一軍一團是レナリ一部隊トハ聯隊大隊中小隊等皆是レナリ其司令ニ任スル者即チ所謂司令官タリト雖モ下士ノ小部隊ニ長タル如キハ則チ司令官ト稱スルノ限ニ在ラサルナリ

第六條 哨兵ト稱スルハ儀仗若クハ警戒ノ爲メ守地ニ在ル者ヲ謂フ
本條ハ哨兵ノ稱呼ヲ定ムルナリ抑哨兵ニ二

アリ即チ儀仗警戒是レナリ諸衙門ニ對立スル如キハ則チ主トスル所儀仗ニ在リ要地ニ配置シ不虞ニ備フル者ハ警戒ヲ以テ主ト爲ス并ヒニ軍人特殊ノ勤務兵法ニ於テ殊ニ之ヲ重ニス故ニ刑法亦特ニ之ヲ掲ケ一般ノ軍務ト異ニス理ノ當サニ然ルヘキ所ナリ○哨兵トハ立哨動哨等都テ守地ニ在テ瞭望シ軍隊耳目ノ責ニ任スル者ヲ謂フ其屯所ニ在ル者及ヒ兵法ニ所謂大哨兵小哨兵ノ類ヲ謂フニ非サルナリ故ニ本律所謂哨兵ハ兵法ニ稱スル哨兵ト小異同アリ同一視スル勿レ

第七條 上官ト稱スルハ官等ノ上ナル者ヲ謂フ同等ト雖モ命令ヲ下ス可キ權ヲ有スル者其部下ニ於テハ上官ニ同レ上等卒及ヒ上等卒ノ職ヲ奉スル者其部下ニ於ル亦之ニ准ス本條ハ官階ノ序既ニ然ルノ上官ハ素ヨリ本ト上官ニ非スト雖モ本律ニ於テ特ニ定メテ上官ト爲ス者ヲ示スモノナリ抑同等ト雖モ命令ヲ下ヌヘキ權ヲ有スル時ハ其部下ニ於テ之ヲ上官ト同視シ之ニ服從スルニ非サレハ則チ職權立タヌ命令行ハレス軍隊ノ害之レヨリ大ナルハナレ是レ本律特ニ云ヤスル

所以ナリ○同等ニシテ命令ヲ下スヘキ權ヲ有スル者トハ大尉ニシテ大隊長ノ職ヲ奉スル時ノ類ヲ謂フ上等卒ハ卒ニシテ伍長ニ均シキ職ヲ爲ス者ヲ謂フ並ニ其職權旣ニ然ルノ上官ト毫モ異ナルナキヲ以テ或ハ獨リ部下ニ止ムルノ理ナキ如シト雖モ然ル能ハサルモノアリ譬ヘハ大尉大隊長ノ職ヲ奉スルニ當リ其職權縱令他ノ少佐ニシテ大隊長タル者ト異ナルナシト雖モ大尉ハ則チ大尉ナリ故ニ他ノ少佐ニ對シ暴行ヲ爲セハ即チ第七十六條ノ犯者タルニ免レス若シ夫レ其職

權等シキヲ以テ同等官相毆ツ者ト爲サンカ官等ノ階級ハ經ナリ軍秩ノ序決シテ紊ルヘカラス況ヤ大尉少佐ノ職ヲ奉スルハ權ナリ法ヲ立ル已ムヲ得サルニ非ルヨリハ經ヲ舍テ權ヲ取ル能ハス故ニ本條部下ニ止メテ其他ニ及ホリス固有ノ官階職權ト並ヒ行レテ而相悖ラス中ヲ取り宜キヲ制スルナリ

第八條 將校同等ノ軍人ハ總テ將校ニ同シ本條ハ將校同等ノ軍人ニシテ將校ニ非サル者モ本律ニ於テハ將校ト同視スレトヲ示スナリ何チカ將校同等ノ軍人ニシテ將校ニ非

スト謂フ會計部軍醫部馬醫部等ノ諸官是レ
ナリ本律剝官ヲ以テ將校犯罪ノ附加刑トス
故ニ此條ヲ設ケサレハ會計官醫官ハ剝官ノ
附加刑ヲ施スヲ得ス此ノ如キハ則チ權衡宜
キヲ失スルノミナラス實際亦決シテ其官ニ
在ラシムヘカラス是レ此條ヲ設クル所以ナリ
第九條 軍屬及ヒ陸軍所屬ノ諸生徒ハ總テ軍
人ニ同シ

本條ハ軍屬諸生徒ヲ以テ軍人ト同視スルヲ
示スナリ軍屬ノ解ハ第四條之ヲ詳ニス諸生
徒ハ字面ニ依リ解スヘキヲ以テ本律別ニ解

釋ニ屬スル條ヲ設ケス士官學校教導團其他
總テ生徒ノ稱アル者皆是レナリ軍屬生徒素
ヨリ軍人ト異ナリ而之ヲ軍人ト同クスルモ
ノハ何ソヤ陸軍ノ制度實際然ラサルヲ得サ
ルニ由ルナリ何トナレハ則チ軍屬ノ如キ軍
人ト參互職ニ任シ同シク事ニ從フ而ルニ軍
屬ハ軍律ニ問スヘカラスト爲セハ則チ執ル
所ノ事同シク犯ス所ノ罪均シクシテ一ハ軍
律ニ一ハ普通刑法ニ問スルニ至ル特ニ實際
ノ障礙少ナカラサルノミナラス理モ亦允當
ト爲スヲ得ス是ヲ以テ讀法宣誓ノ式ヲ用

ヒ陸軍ニ従事スル者ハ甘シテ此刑法ノ治下ニ在ラシムルナリ生徒ノ如キハ軍人ノ常人ト均シカラサル所以平素銘心セシムルニ在ラサレハ一朝事アルニ當リ遽カニ其心ヲ生セシムルヲ得ス服従法ノ如キ尤其著明ナルモノナリ就中教導團生徒ノ如キ現役軍人ヨリ入ル者アリ即チ儼然軍隊ノ組織ヲ爲ス軍律ノ治下ニ在ラシメサルヘカラサル者ナリ是レ此條ヲ設ケ軍屬生徒ヲ軍人ト同シクスル所以ナリ

第十條 親屬ト稱スルハ普通刑法第百十四條

第百十五條ニ記載スル者ヲ謂フ

陸軍刑法情ニ循ヒ其罪ヲ恕スルモノ幾ント地ヲ掃フ故ニ此條ニ要スル所ナキ如シト雖モ獨第百十六條ノ罪事タル事後ニ屬シ其情普通刑法第百五十一條ノ罪ト異ナルナキヲ以テ親屬不論罪ノ例亦之ト同シクス是レ此條ヲ設クル所以ナリ

第十一條 豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ハ召集中ノ外此刑法ニ依テ處斷スルヲ得ス但此刑法ニ特例アル者ハ此限ニ在ラス
本條ハ豫備後備ノ籍ニ在ル軍人ハ召集中及

ヒ特例アル者ノ外此刑法ニ問セサルヲ示
スナリ抑豫備後備ノ籍ニ在ル者固ヨリ軍人
タリト雖モ既ニ常備軍隊ノ範圍ヲ脱シ他管
擅出等ヲ禁スルノ外起居動止一モ常人ト異
ナルナシ軍律ノ治下ニ在ラシメサルモ軍隊
ノ害ヲ爲スノ事ナキナリ但有事召集ノ時ハ
固ヨリ平時復習ノ爲メト雖モ一タヒ之ヲ召
集スレハ則チ儼然軍隊ノ組織ヲ爲ス軍律ヲ
以テ其罪ヲ正サ、ルヲ得ス且召集中ニ非ス
ト雖モ第七條違期ノ罪ハ即チ軍事犯タリ
之ヲ不問ニ付スルヲ得ス故ニ本律ニ問ス所

謂特例是レナリ

第十二條 第八十條 第八十一條 第八十六條 第
八十七條 第八十八條 第八十九條 第九十條 第
項第九十五條 第一百十一條 第一百十二條 第百十三
條 第百十四條 第百十五條 第百十六條ニ掲クル
所ノ罪ヲ犯ス者ハ軍人ニ非スト雖モ此刑法ニ
依テ處斷ス
第百六條 第百七條 第百十七條 第百十八條 第百
十九條 第百二十條ノ罪ヲ犯サシムル者ハ軍人
ニ非スト雖モ亦軍人ト同ク論ス
本條分ツテ二項トス前項ハ軍人ニ非スト雖

モ此刑法ニ依テ處斷スル所ノ各犯罪ヲ示シ
後項ハ軍人ニ非スト雖モ軍人ト同ク論スル
諸犯罪ヲ示スモノナリ並ニ軍人ニ非スト雖
モ犯スヲ得ルノ犯罪ニシテ其害亦均シク軍
民刑ヲ異ニスヘキノ理ナキモノナリ而前項
ニ揭クル所即チ第八十條第八十一條ハ哨兵
ニ對スル暴行ノ罪第八十六條ハ俘虜降人ヲ
劫奪シ若クハ暴行脅迫ヲ以テ其逃走ヲ助ク
ルノ罪第八十七條ハ創傷人ノ衣物ヲ褫奪ス
ルノ罪第八十八條第八十九條第九十條ハ軍
用ノ屋舎軍需物件等ヲ毀壞燒燬毀棄シ若ク

ハ軍用馬匹ヲ殺傷スル等ノ罪第九十五條ハ
哨兵ヲ罵慢スルノ罪第一百一條ハ戒嚴地方
ニ於テ造言飛言ヲ爲スノ罪第一百十二條ハ俘
虜降人ヲ逃走セシムルノ罪第一百十三條ハ俘
虜降人ヲ逃走セシムル爲メ器具ヲ給與スル
ノ罪第一百十四條ハ前二條ノ未遂罪トス皆軍
人ニ非スト雖モ自ラ正犯タルヲ得ル者タリ
故ニ教唆者タリ從犯タル者ハ數人共犯例ニ
照シテ處斷スル必スシモ言ヲ待タスト雖モ
後項ニ揭クル所即チ第一百六條ハ軍人允許ヲ
得他方ニ赴キ歸期ニ後ル、ノ罪第一百七條ハ

徵兵歸休兵豫備後備ノ軍籍ニ在ル者違期ノ罪第百十七條以下ハ軍人逃亡ノ罪トス皆軍人ニ非サル者教唆者若クハ從犯タルコトヲ得ルモ自ラ正犯タルコトヲ得サル者ナリ故ニ犯サシムル者ハ云々ト記ス其原既ニ異ナリ書法亦隨テ小異ナキヲ得ス然リト雖モ共犯例ニ依ルニ至テハ則チ一ナリ

第十三條 敵前軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テ第五十三條第五十四條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條ニ掲クル所ノ罪ヲ犯ス者ハ軍人ニ非スト雖モ

此刑法ニ依テ處斷ス但其豫備若クハ陰謀ニ止マル者ハ第六十二條第六十三條ニ照シテ處斷ス

本條ニ掲クル所ハ總テ反亂罪ニ係ルノ事ニシテ害ヲ軍險ニ來スノ最モ大ナル者トス故ニ軍人ニ非スト雖モ之ヲ本律ニ問ス然リト雖モ其普通刑法國事犯ノ各條ト撞著シ本條ノ效力普通刑法ヲ克スルモノ頗ル多キヲ以テ敵前以下害最モ甚シキノ時ヲ以テ之ヲ區別シ本律普通刑法ト並ヒ行ハレテ而相悖ヲサラシムルナリ而其普通刑法ト相關涉スル

テ以テ本條ヲ設クル所以ノ理ヲ詳論シテ以
テ本條ノ關クヘカヲサル所以ヲ明ニセント
ス抑陸軍刑法ヲ設クル所以ノ要軍紀ヲ維持
シ軍隊ノ安寧ヲ保護スルニ在リ故ニ軍隊ノ
害ヲ爲ス者ハ常人ト雖モ之ヲ寛假セス第十
二條ヲ設ケ軍民刑ヲ一ニス本條掲クル所ノ
如キ亦事タル極メテ大ニシテ而軍人ニ非ス
ト雖モ犯スヲ得ル者ナリ而ルニ此刑法ニ掲
ケ其罪ヲ正スニ非サレハ内亂ニ關スル罪ニ
在テハ猶或ハ可ナリ外患ニ關スル罪ニ至テ
ハ軍ヲ覆ヘシ國ヲ賣ルノ豫備陰謀ヲ爲スモ

之ヲ罰スル能ハサルノミナラス監視ニ付ス
ルモ猶且能ハス此ノ如クナル時ハ戒嚴警備
モ全ク其效ヲ失ヒ軍隊ノ安寧得テ保ツヘカ
ヲサルナリ然リト雖モ全然普通刑法ヲ克シ
其レヲシテ效ナカラシムヘカラス且縱令軍
隊ノ害ヲ爲スモ戒嚴地方ニ非サルヨリハ直
チニ勝敗ノ數ニ關スルニ至ラス故ニ地ヲ分
チ之ヲ區別シ其害最モ甚シキモノヲ本律ニ
間シ其他ハ普通刑法ニ讓ル是ニ於テ彼此兩
立緩急相濟シ所謂並ヒ行ハレテ而相悖ラサ
ルヲ得ルナリ或ハ曰ク本條地ニ因リ之ヲ分

ツ妨ケナキ如シト雖モ之ヲ實際ニ徵シ權衡
甚タ當ヲ失フニ至ラントス譬ヘハ九州ニ事
アリ熊本鎮臺數里以内ヲ以テ合圍地方ト爲
スニ方リ事ヲ薩肥ノ間ニ起シ來テ熊本ニ戰
フ者ハ普通刑法ニ問シ熊本ニ在テ之ニ應シ
第五十三條以下ニ掲クル所ニ觸ル、モノハ
此刑法ニ問ス其罪決ノ異同アルヘカラス而
刑ハ則チ死生懸隔ス且普通刑法内外ヲ分テ
其刑ヲ異ニスル亦決シテ理ナキニ非ス内亂
ニ關スル罪ハ普通ノ犯罪ト同シカラス既ニ
遂レハ則チ罰スル能ハサルモノナリ故ニ之ヲ

罰スル未遂ノ時ニ在リ是ヲ以テ之ヲ未萌ニ
阻遏シ原ヲ燎クニ至ラサラシメントス是レ
特ニ豫備陰謀モ之ヲ罰スル所以ナリ外患ニ
關スル罪ハ則チ否ラス既ニ遂ルノ後ト雖モ
猶得テ之ヲ罰スヘシ況ヤ内亂ノ如ク彼我相
密邇スルモノニ非ス之ヲ陰微ニ防ク所以ヲ
慮ル亦必スシモ内亂ノ如クスルヲ要セス故
ニ普通ノ法理ニ從ヒ豫備陰謀ヲ罰セサル固
ヨリ其宜キナリ權衡既ニ平ヲ得ス法理亦必
スシモ之ヲ罰スルヲ要セス而ルニ之ヲ此刑
法ニ掲ケ軍人以外ノ者ニ及ホスハ不可ナリ

ト此論理ナキニ非スト雖モ所謂權衡平ヲ得サルモノハ獨リ常人ニ就テ之ヲ謂フ耳試ニ本條ヲ設ケスシテ軍ト民トヲ比較シ其權衡ヲ論セン例ヘハ軍民共謀敵ノ爲メニ兵ヲ募ル者アリ軍人ハ此刑法ニ因リ死刑ニ處シ常人ハ普通刑法第二百一十一條二三ニ所謂樞要ノ職務ヲ爲シ若クハ諸般ノ職務ヲ爲ス者ヲ以テ論スル重キモ有期流刑ニ過キス又外敵内侵兵刃日ニ接シ人心洶々ノ際ニ方リ軍民共謀此刑法第五十三條以下ニ記スル所ノ罪ヲ犯サントシテ其豫備陰謀ヲ爲シ發覺ス

ルニ方リ軍人ハ死ヲ免ル、纔ニ一等常人ハ無罪トス縱令軍民責任ヲ異ニスルモ權衡宜キヲ失フノ甚シキモノニ非スヤ又豫備陰謀ハ必スシモ之ヲ罰スルヲ要セスト云フニ至テモ允當ナラサルモノアリ夫レ罪ト爲シ刑法ニ掲ケ其輕重ヲ分テ之ヲ懲戒スル所以ノモノ道德ニ背クト社會ヲ害スルトノ輕重大小ニ基ヒセサルヲ得ス是レ普通ノ法理タリ抑道德ニ背クノ淺深國ヲ賣リ一身ノ僥倖ヲ謀ル者ト政府ノ改良ヲ祈圖シ生命ヲ犧牲ト爲ス者ト孰與レ社會ヲ騷擾シ禍害ヲ國家ニ

來ス豈亦内亂ヲ以テ外患ヨリ甚シト爲スヲ
得ンヤ此ニ由テ之ヲ觀レハ豫備陰謀内亂ハ
之ヲ罪トシ外患ハ罪トスルヲ要セスト云フ
恐クハ妥當ト爲スヲ得ス況ヤ此刑法既ニ内
外ヲ分タス稱シテ敵ト爲スニ於テヤ夫ノ
豫備陰謀ヲ以テ罪ト爲スノ普通法理ニ非サ
ルハ素ヨリ然リ然リト雖モ既ニ内亂ニ關ス
ル罪特例ヲ設ケ之ヲ罪ト爲セハ則テ外患ニ
關スル罪ニ至テハ殊ニ然ラサルヲ得サルノ
理ヲ生セントス蓋シ内亂外患ハ國家ノ大變
賊ヲ討シ敵ヲ退クルハ政府ノ責任即チ社稷

ヲ保チ若生ヲ安スル所以而其之ヲ致ス所以
ノモノ軍隊ノ力ニ賴ラスンハアラサルナリ
覆巢ノ下完卵ナシ豈我軍敗レテ而政府人民
安然ヲ得ルノ理アラシヤ是ヲ以テ國家ノ非
常權常律ヲ廢シ軍律ヲ以テ全國人民ヲ處ス
ルノ時アリ夫レ合國地方ノ如キ佛國ニ於テ
ハ行政司法ノ權一ニ之ヲ軍衙ニ歸ス本邦未
タ合國ノ規則公布ニ至ラスト雖モ聞クカ如
キハ其制定近キニ在リト蓋シ大差ナキヲ知
ルヘキナリ即チ國家非常權ヲ行フノ時ニ次
クモノナリ其他臨戰地方及ヒ軍中ノ如キモ

亦宜ク警備ヲ嚴ニシ軍隊ヲ保護スヘシ區々タル權衡ニ至テハ顧ルニ違アラサルノ時ナリ況ヤ縱令本條ヲ删除スルモ權衡平ヲ得サルニ至テハ一ナリ而軍隊ノ巨害得テ醫スヘカラサル者アルニ於テヤ亦況ヤ内亂外患ヲ分タス豫備陰謀モ之ヲ罪ト爲ス理ニ於テ妨クル所ナク殊ニ軍律ニ於テハ然ラサルヲ得サルニ於テヤ故ニ本條決メ删除ヘカラサルナリ是レ本條ヲ設クル所以ノ概略ナリ

第二編第一章中常人ニ及ホサル者アリ第五十條第五十一條第五十二條第五十五條第

六十四條是レナリ其第五十條及ヒ第五十一條第五十二條ハ則チ軍人ニシテ殊ニ懲戒スヘキ者第五十五條ハ則チ軍人ニ非サレハ犯ス能ハサル者素ヨリ本律ニ間スヘカラサルナリ其第六十四條ハ則チ第一章内ニ挿入スト雖モ其心タル反亂者ニ黨スルニ非ス敵ヲ利スルノ意ニ出ルニ非ス一時利ノ眩スル所ト爲ル等ノ情ニ出ルモノニシテ全ク反亂ト原因ヲ異ニシ且輕罪タリ必スシモ之ヲ軍律ニ間スルニ非サレハ軍隊ヲ保護スル能ハスト爲スモノニ非ス故ニ之ヲ本律ニ間セサル

ナリ

第六十二條第六十三條ノ二條ヲ第六十一條
 ト列記セス故ラニ但書ト爲スモノハ其二條
 ニ所謂前數條トハ第五十條第五十一條第五
 十二條モ亦其中ニ在リ而其三條ハ常人ニ及
 ハサルモノナルヲ以テ之ヲ列記スレハ則チ
 事ヲ行フ者ハ常律ニ間シ豫備陰謀ヲ爲ス者
 却テ軍律ニ間スルニ至ル故ニ此ノ如ク記セ
 サルヲ得サルニ由ルナリ
 敵前ノ字敢テ解ヲ要セサル如シト雖モ之ヲ
 實際ニ徴シ頗ル疑議ニ免レサルモノアリ譬

ヘハ敵ト相持スルノ時ニ方リ其敵前ト稱ス
 ルモノ第何線ニ及フヘキヤ或ハ曰ク第一線
 ニ止ムヘシ或ハ曰ク一方面敵ニ當ル者皆然
 リト特ニ積極ト消極トノミナラサルナリ抑
 兵ハ活機奇正離合素ヨリ常ナシ敵前ノ如キ
 時ニ從テ變スル亦理勢ノ免レサル所豫シメ
 繩墨ヲ以テ定ムヘカラサル者ナリ故ニ時ノ
 緩急害ノ大小有無等ヲ酌量シ或ハ一線ニ止
 メ或ハ二線三線ニ及ホシ只判者善ク本律嚴
 ニ敵前ヲ戒ムルノ趣旨ヲ體シ罪刑當ヲ得ル
 ノ處分ヲ爲スニ委スル耳但一方面敵ニ當ル

者ヲ擧ケテ敵前ト爲スハ固ヨリ本律ノ趣旨ニ非サルナリ或ハ曰ク敵前ノ字指ス所詳ナラス而其刑極メテ嚴頗ル危険ノ法タルヲ以テ敵ノ目前等ノ字ヲ用ヒ區域ヲ定ムルノ大過ナキニ如カスト此說理アル如シト雖モ目前ノ字局面甚タ狹ク却テ判者ヲシテ情ヲ得ルノ裁判ヲ爲スヲ得サヲシムルニ至ラントス何トナレハ則チ目前ハ即チ肉眼ノ及フ所皆是レナリ故ニ或ハ數里ノ外ニ及フノ時アリ或ハ至近ノ地ニ在ルモ所謂一指前ニ在レハ泰山爲メニ蔽ハル、ノ比喻ノ如ク小林樾

小丘阜ノ肉眼ヲ遮斷スルアレハ敵前ト稱スルヲ得サルニ至ル而却テ數里ノ外ニ在ル者ヲ指稱シテ是レ敵前ナリト謂フ豈可ナランヤ抑兵ハ活機敵前ノ稱由テ生スル所ナリ而ルニ強テ之カ區域ヲ定メントス是レ活機ヲ規定スルニ死法ヲ以テスルナリ如カス其局面ヲ廣クシ判者ニ與フルニ之ヲ活用スルノ地ヲ以テシ情狀ヲ量リ罪刑當ヲ得セシムルニ夫レ活機ヲ待ツニ活人ヲ以テス豈情ヲ得サルヲ憂ンヤ目前等ノ字決シテ用フヘカヲサルナリ

軍中トハ其所在ノ如何ヲ問ハス戦闘ニ從事
スル所ノ軍隊中ハ素ヨリ其他有事行軍出征
途中等皆是レナリ
臨戰合圍トハ警備戒嚴ノ緩急ニ從ヒ下ス所
ノ名稱ニシテ現ニ戰ニ臨ミ又ハ敵ニ圍マル
ルノ謂ニ非ス臨戰ハ敵近ツキ來ルノ遠近ヲ
量リ戰ニ臨ム如キ意ヲ以テ警備ヲ布クヲ謂
フ故ニ其區劃一郡一國ニ涉ルコトアリ而戒嚴
ノ旨趣合圍ニ比スレハ稍緩ナリ合圍ハ要塞
又ハ城堡等據テ以テ敵ヲ支拄スルニ足ルノ
地ヲ根據トシ合圍中ニ在ル如キ意ヲ以テ戒

嚴ヲ爲スヲ謂フ而合圍ハ特ニ戰時ノミニ非
ス土寇内亂ノ起ラントスルニ方リ其公布ヲ
爲スノ時アリ其レ然リ故ニ其圍城臨戰地方
ニ比スレハ狭ク而戒嚴ノ旨趣ハ則チ嚴ナリ
トス是レ臨戰合圍解釋ノ概略トス而並ニ兵
法ニ於テ一大緊要ノ法度タルヲ以テ其規則
洪濶決シテ一二言ノ能ク盡ス所ニ非ス宜ク
他日其規則ノ公布アルヲ待テ之ヲ知ルヘシ
第十四條 此刑法ノ罪ヲ犯スニ因リ人ヲ殺傷
スル者ハ普通刑法第三編第一章ニ照シ重キニ
從テ處斷ス但此刑法ニ特例アル者ハ此限ニ在

軍中トハ其所在ノ如何ヲ問ハス戦闘ニ從事
スル所ノ軍隊中ハ素ヨリ其他有事行軍出征
途中等皆是レナリ
臨戰合圍トハ警備戒嚴ノ緩急ニ從ヒ下ス所
ノ名稱ニシテ現ニ戰ニ臨ミ又ハ敵ニ圍マル
ルノ謂ニ非ス臨戰ハ敵近ツキ來ルノ遠近ヲ
量リ戰ニ臨ム如キ意ヲ以テ警備ヲ布クテ謂
フ故ニ其區劃一郡一國ニ涉ルコアリ而戒嚴
ノ旨趣合圍ニ比スレハ稍緩ナリ合圍ハ要塞
又ハ城堡等據テ以テ敵ヲ支拄スルニ足ルノ
地ヲ根據トシ合圍中ニ在ル如キ意ヲ以テ戒

嚴ヲ爲スヲ謂フ而合圍ハ特ニ戰時ノニ非
ス土寇内亂ノ起ラントスルニ方リ其公布ヲ
爲スノ時アリ其レ然リ故ニ其劃域臨戰地方
ニ比スレハ狭ク而戒嚴ノ旨趣ハ則テ嚴ナリ
トス是レ臨戰合圍解釋ノ概略トス而並ニ兵
法ニ於テ一大緊要ノ法度タルヲ以テ其規則
洪濶決シテ一二言ノ能ク盡ス所ニ非ス宜ク
他日其規則ノ公布アルヲ待ケ之ヲ知ルヘシ
第十四條 此刑法ノ罪ヲ犯スニ因リ人ヲ殺傷
スル者ハ普通刑法第三編第一章ニ照シ重キニ
從テ處斷ス但此刑法ニ特例アル者ハ此限ニ在

ラス

本條ハ此刑法ノ罪ヲ犯スニ因リ人ヲ殺傷スル者ハ其被害者ノ何者タルヲ分タス普通刑法身體ニ對スル罪ノ各條ニ照シ重キニ從テ處斷スルヲ示スナリ抑本律上官哨兵等ニ對スル暴行服從法ニ背キ軍隊ノ秩序ヲ紊亂シ軍隊ノ耳目ヲ戕害スル等ヲ以テ主ト爲ス故ニ情況ノ如何ヲ以テ其刑ヲ輕重シ傷ノ輕重ヲ問ハサルナリ若シ夫ノ殺死ノ謀故傷ノ輕重ニ因リ刑ヲ定ムル如キハ則チ基ヒテ性法ニ取ラサルヘカラス即チ是レ普通刑法ノ

事決シテ陸軍刑法ノ精神ト爲スヘカラス然リ而本律既ニ人身ニ對スル暴行ノ罪アリ因テ殺傷ニ至ル亦理勢ノ免レサル所是ヲ以テ本條ヲ設ケ彼此並ヒ行ハレテ而悖ラサラシムルナリ然リト雖モ特例ヲ設ケテ以テ殊ニ之ヲ懲戒セサルヲ得サル者アリ即チ第五十二條第八十七條第二百一十一條是レナリ第五十二條ハ反亂罪ヲ犯スニ因リ鎮撫ノ官吏ヲ殺ス者トス其事極メテ重ク普通刑法人ノ身體ニ關スル罪ヲ以テ論スヘカラス第八十七條ハ傷者ノ衣物ヲ褫奪スルニ因テ之ヲ殺傷

スル者トス殘忍殊ニ甚シク且平時ニ之レアルヘカラサルノ事ニシテ又尋常殺傷罪ト異ナリ第百二十一條ハ主管者不良ノ飲食物ヲ配付シ因テ死ニ致スモノトス軍隊ニ在テ殊ニ其害甚シキ者ニシテ常人ノ輒ク犯スヲ得ルノ犯罪ニアラス皆情況殊別普通刑法ニ委スヘカラサル者ナリ故ニ特ニ本律ニ掲ケテ軍事犯ト爲スナリ

陸軍刑法釋義卷之一終

陸軍刑法釋義卷之二

井上義行著

第二章 刑例

刑例凡テ二十條主刑附加刑ノ刑名及ヒ其處分ノ方法及ヒ徵償刑期計算假出獄期滿免除復權等ニ關スル諸則ヲ掲ク

第十五條 刑ハ主刑及ヒ附加刑ト爲ス

主刑ハ之ヲ宣告ス

附加刑ハ此刑法ニ於テ其宣告スル者ト宣告セサル者トヲ定ム

本條ハ刑ニ主刑ト附加刑トノ二アルヲ示シ

隨テ宣告スル者ト宣告セサル者アルノ別ヲ
定ム即チ刑例ノ主眼以下ノ諸條皆本條ヨリ
生スルモノナリ而主刑ハ獨立獨行ノ生質ヲ
有シ附加刑ハ主刑ニ附隨シテ行ハル猶松柏
ト藤蘿トノ如シ故ニ主刑ハ必ス宣告シ附加
刑ハ必ス主刑ニ屬シテ相分ツヘカラサルモ
ノト必スシモ附スルヲ要セスシテ時アリテ
附スルモノト又必スシモ附セサルヘカラサ
ルニ非スシテ實際附セサルヲ得サルモノア
ルトノ別ニ依リ宣告スル者ト宣告セサル者
トノ別ヲ分ツ即チ第二十九條ノ如キハ必ス

分ツヘカラサルモノ第三十條ノ如キハ時ア
リテ附加スルモノ第三十一條ノ如キハ實際
附セサルヲ得サルモノ是レ其同シカラサル
所ニシテ所謂法律ニ於テ其宣告スル者ト否
トヲ定ムル所以ノ由テ生スル所ナリ
第十六條 左ニ掲タル者ヲ以テ重罪ノ主刑ト
爲ス

- 一 死刑
- 二 無期徒刑
- 三 有期徒刑
- 四 無期流刑

五 有期流刑

六 重懲役

七 輕懲役

八 重禁獄

九 輕禁獄

本條ハ重罪ノ刑名ヲ掲クルニ過キス而刑ノ種類分ツテ二ト爲ス即チ徒刑懲役一流刑禁獄一普通刑法一ヲ常事犯ノ刑ト爲ス徒刑懲役是レナリ一ヲ國事犯ノ刑ト爲ス流刑禁獄是レナリ本律刑ヲ定ムル少シク之ト異ナリ抑軍事犯ノ生質タル國事犯ト稍其趣旨ヲ同

シクスル第一條ノ註ニ説ク所ノ如シ故ニ擬スルニ國事犯ノ刑ヲ以テスル者多キニ居ル而破壊詐偽等常事犯ト生質ヲ同シクスル者ハ皆常事犯ノ刑ヲ該ス其犯事ノ國事ニ關スルト否トヲ以テ之ヲ分ツニ非サルナリ第十七條 左ニ掲クル者ヲ以テ輕罪ノ主刑ト爲ス

一 重禁錮

二 輕禁錮

本條亦輕罪ノ刑名ヲ掲クルニ過キス而均シク禁錮ニシテ輕重ヲ分ツ所以普通刑法亦略

ホ前條說ク所ニ同シ即チ重禁錮ハ常事犯輕
禁錮ハ概テ國事犯ノ刑トス本律之ヲ分ツ所
以ハ一モ前條ト異ナルナシ

普通刑法輕罪ニ罰金ノ刑アリ本律之レナシ
軍事犯ニ罰金ヲ以テ罰スヘキノ事ナキヲ以
テナリ

第十八條 左ニ掲クル者ヲ以テ附加刑ト爲ス

- 一 剝奪公權
- 二 剝官
- 三 停止公權
- 四 禁治產

五 監視

六 沒收

本條ハ附加刑ノ目ヲ掲クルニ過キス而剝奪
公權ハ普通刑法第三十一條ニ掲クル所ノ諸
權ヲ剝奪スルモノニシテ其趣旨人々固有ノ
權利ヲ剝奪シ其名譽ヲ塗抹シテ之ヲ懲戒ス
ルニ在リ即チ第二十九條ニ云フ如ク別ニ宣
告ヲ用ヒス重罪ノ刑ニ處スル者ニ附加スル
者トス

剝官ハ本律特ニ之ヲ設クル者ニシテ將校ノ
犯罪ニ附加スル者トス而概シテ之ヲ附加ス

ルニ非ス犯事ノ輕重ニ因リ之ヲ附加スルト
否トヲ分ツアリ又其性質ニ因リ之ヲ區別ス
ルアリ抑軍事犯ノ常事犯ト其原因ヲ異ニス
ルハ第一條ニ於テ之ヲ解説スル如シ而ルニ
犯事ノ輕重ヲ分タス概シテ之ヲ剝クハ罪刑
當ヲ得ルト爲スヘカラス且多年養成スル所
ノ將校輒ク其官ヲ剝クハ亦法ノ宜キヲ得ル
者ト爲スヘカラス故ニ純然タル軍事犯ニ於
テハ罪ノ輕重ニ因リ本官ニ置クヘキト否ト
ヲ測リ之ヲ區別シ破壊詐偽等常事犯ト原因
ヲ同シクスル者ハ輕重ヲ論セス總テ之ヲ剝

奪スルナリ
停止公權ハ之ヲ剝奪スルト大ニ異ナリ即チ
多少ノ年月間之ヲ行フヲ停止スルヲ謂フナ
リ
禁治産ハ自己ノ財産ヲ處分スルヲ禁シ別
ニ監財人ヲシテ之ヲ管理セシムルヲ謂フナ
リ
監視ハ主刑ノ終リタル日ヨリ多少ノ年月間
之ヲ附加シ其行爲ヲ監察シ旅行住居等ニ於
テモ亦自ラ專ラニスルヲ許サス其自由ヲ束
縛シテ以テ之ヲ檢束スルナリ

沒収ハ物品ヲ官沒スルナリ其物品ノ如キハ
第三十二條ニ適用スル所ノ普通刑法第四十
三條ニ詳ナリ

第十九條 陸軍法衙ニ於テ死刑ニ處スル者ハ
皆之ヲ銃殺ス

本條ハ陸軍法衙ニ於テ行フ所ノ死刑處分ノ
方法ヲ示スモノナリ抑陸軍法衙ニ於テ處分
スル者其軍律ニ依ルト普通刑法ニ依ルトヲ
問ハス皆射殺法ヲ用フルモノハ他ナシ便ニ
從フナリ何トナレハ則チ陸軍法衙ハ一朝有
事ノ日ニ當テハ軍隊ト俱ニ動止スルモノナ

リ而ルニ死刑器械等ヲ運搬スルハ實際不便
甚シク遂ニ行フ能ハサルニ至ルヘキヲ以テ
ナリ

第二十條 死刑ハ陸軍卿ノ命令アルニ非サレ
ハ之ヲ行フヲ得ス

軍中若クハ合圍ノ地ニ於テ特權ヲ有スル者ア
ル時ハ其命令ヲ以テ之ヲ行フヲ得

本條ハ死刑執行ノ例他刑ト異ナルヲ示スモ
ノナリ夫レ裁判確定シ直チニ刑ヲ執行スル
ハ普通ノ例ナリ然リト雖モ死者再ヒ活スヘ
カラス且陸軍卿團長司令官隊長理事司獄官

更等ヨリ特赦ヲ請フノ事アリ故ニ卿ノ命令
アルニ非サレハ之ヲ行フヲ得ス慎重ヲ加フ
ルナリ

第二項ハ非常ノ際ニ在テハ卿ノ命ヲ待タス
特權ヲ有スル司令官ノ命ヲ以テ之ヲ行フヲ
得ルノ變例ヲ示スモノナリ而軍ニ大小ノ別
アリ隨テ司令官ノ權亦異同アリ故ニ必ス特
權ヲ有スルニ非ス合國ノ地亦然リ是レ特權
ヲ有スル者アル時ハ云ヤト記スル所以ナリ
而是レ特命ヲ以テ附與セラレ、モノニシテ
法律ヲ以テ豫シメ定ムヘキノ事ニ非サルナ

リ

第二十一條 徒刑ハ無期有期ヲ分タス島地ニ
發遣シ定役ニ服ス

有期徒刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス

本條ハ徒刑ノ處分及ヒ其年期ヲ示スモノト
ス其島地ニ發遣スルモノハ要スルニ之ヲ懲
戒スルト開拓鑛業等公益ヲ興スノ事ニ從事
セシメントスルニ基ツクナリ以下普通刑法
ト趣旨ヲ同シクスルモノハ別ニ之カ解ヲ記
セス既ニ諸家ノ註解等ニ詳ナルヲ以テナリ

第二十二條 流刑ハ無期有期ヲ分タス島地ノ

獄ニ幽閉シ定役ニ服セス

有期流刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス

第二十三條 懲役ハ懲役場ニ入レ定役ニ服ス

重懲役ハ九年以上十一年以下輕懲役ハ六年以

上八年以下ト爲ス

第二十四條 禁獄ハ獄ニ入レ定役ニ服セス

重禁獄ハ九年以上十一年以下輕禁獄ハ六年以

上八年以下ト爲ス

第二十五條 禁錮ハ禁錮場ニ入レ重禁錮ハ定

役ニ服シ輕禁錮ハ定役ニ服セス

禁錮ハ重輕ヲ分タス十一日以上五年以下ト爲

シ仍ホ各本條ニ於テ其長短ヲ區別ス

第二十六條 普通刑法第十四條第十五條第十

六條第十八條第十九條第二十一條第二十二條

第二十五條ニ記載スル所ノ主刑處分ノ例ハ此

刑法ニ於テ之ヲ適用ス

本條掲クル所普通刑法ノ數條ハ本律之ト異

ニスヘキノ理ナキヲ以テ故ヲニ之ヲ掲ケス

皆普通刑法ヲ適用ス簡ニ從フナリ○本律普

通刑法ト文意全ク同シキモ故ヲニ之ヲ掲ク

ルモノアリ之ヲ適用スルモノアリ其別故ヲ

ニ掲クルモノハ皆綱領ニ屬スルノ事ニシテ

適用スルモノハ細目ニ係ルノ事ナリ而適用
 條中本律ニ要スル所ナキモノアリ譬へハ第
 三十五條中普通刑法第五十九條ヲ適用ス而
 第五十九條中罰金科料ノ事ヲ記スルモノア
 リト雖モ本律素ヨリ其刑名ナキヲ以テ自ラ
 用フル所ナク消滅ニ屬スルノ類ナリ

○第十四條 大祀令節國祭ノ日ハ死刑ヲ行フ
 一ヲ禁ス

○第十五條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懐胎
 ナル時ハ其執行ヲ停メ分娩後一百日ヲ經ル
 ニ非サレハ刑ヲ行ハス

○第十六條 死刑ノ遺骸ハ親屬故舊請フ者ア
 レハ之ヲ下付ス但式ヲ用ヒテ葬ル一ヲ許サ
 ス

○第十八條 徒刑ノ婦女ハ島地ニ發遣セス内
 地ノ懲役場ニ於テ定役ニ服ス

○第十九條 徒刑ノ囚六十歳ニ滿ル者ハ通常
 ノ定役ヲ免シ其體力相當ノ定役ニ服ス

○第二十一條 無期流刑ノ囚五年ヲ經過スレ
 ハ行政ノ處分ヲ以テ幽閉ヲ免シ島地ニ於テ
 地ヲ限り居住セシムル一ヲ得

有期流刑ノ囚三年ヲ經過スル者亦同シ

○第二十二條 懲役ハ内地ノ懲役場ニ入レ定
役ニ服ス但六十歳ニ滿ル者ハ第十九條ノ例
ニ從フ

重懲役ハ九年以上十一年以下輕懲役ハ六年
以上八年以下ト爲ス

○第二十五條 定役ニ服スル囚人ノ工錢ハ監
獄ノ規則ニ從ヒ其幾分ヲ獄舎ノ費用ニ供シ
其幾分ヲ囚人ニ給與ス但現役百日以内ハ給
與ノ限ニ在ラス

第二十七條 陸軍法衙ニ於テ普通刑法ニ依リ
罰金科料ニ處スル者限内納完セス禁錮拘留ニ

換フル時ハ更ニ裁判ヲ用ヒス理事ノ求メニ因
リ裁判長之ヲ命ス

本條ハ陸軍法衙ニ於テ罰金科料ヲ禁錮ニ換
フルノ處分ヲ示スモノナリ陸軍刑法罰金ノ
刑名ナキヲ以テ其處分ノ例一ニ普通刑法ニ
從フヘシト雖モ本條掲クル所普通刑法ハ檢
察官ノ求メニ因リ裁判官之ヲ命シ本律ハ理
事ノ求メニ因リ云ヤス小異アリ是レ故ヲニ
此條ヲ設クル所以ナリ

第二十八條 剝奪公權ハ普通刑法第三十一條
ニ記載スル所ノ權ヲ剝奪ス

本條ハ剽奪公權ノ何物タルヲ示スモノナリ
而之ヲ剽奪スルノ趣旨ハ第十八條ニ解ク所
ノ如シト雖モ軍律ニ於テ最モ要スル所ハ軍
人于城ノ任ニ背キ重罪ヲ犯ス者ノ兵權ヲ剽
奪シ其名譽ヲ塗抹シ痛ク之ヲ懲戒シ以テ軍
隊ノ秩序ヲ保護スルニ在リ故ニ之ヲ剽奪兵
權ニ作ルモ亦可ナリ而之ヲ剽奪公權ト爲ス
モノハ何ソヤ兵權ハ公權中ノ一部公權ヲ剽
奪スト云ハハ則チ兵權素ヨリ其中ニ在リト
雖モ兵權ヲ剽奪スト云テ公權其中ニ在リト
云フヲ得ス故ニ剽奪兵權ニ作レハ則チ尙ホ

普通刑法第何條ノ權ヲ剽奪スルノ一項ヲ加
ヘサルヘカラス而其第何條ヲ閱スレハ則チ
兵權其中ニ在リ此ノ如クナレハ則チ法律重
複ヲ爲シ體面宜キヲ失フヲ以テナリ然リ
ト雖モ主眼ハ則チ兵權ヲ剽奪スルニ在ルナ
リ

○第三十一條 剽奪公權ハ左ノ權ヲ剽奪ス

- 一 國民ノ特權
- 二 官吏ト爲ルノ權
- 三 勳章年金位記貴號恩給ヲ有スルノ權
- 四 外國ノ勳章ヲ佩用スルノ權

五兵籍ニ入ルノ權

六裁判所ニ於テ證人ト爲ルノ權但單ニ事實ヲ陳述スルハ此限ニ在ラス

七後見人ト爲ルノ權但親屬ノ許可ヲ得テ子孫ノ爲メニスルハ此限ニ在ラス

八分散者ノ管財人ト爲リ又ハ會社及ヒ共有財産ヲ管理スルノ權

九學校長及ヒ教師學監ト爲ルノ權

第二十九條 重罪ノ刑ニ處スル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス終身公權ヲ剝奪ス

第三十條 剝官ハ宣告シテ將校ノ官職ヲ褫奪ス

ス

下士上等卒軍屬其他ノ官吏此刑法ノ罪ヲ犯シ將校ニ在テ剝官ヲ附加スル刑ニ該ル時ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其官職ヲ失フ

本條ハ剝官處分ノ方法及ヒ其效獨リ將校ニ止ラサルヲ示スモノナリ抑剝官ハ特ニ將校ノ刑ニ附加スルモノニシテ必ス之ヲ宣告スル所以ハ將校輕罪ヲ犯スモ總テ其官ヲ剝奪スルニ非サルヲ以テ之ヲ宣告シテ以テ公衆ニ示シ以テ加辱ノ一ト爲スナリ而下士上等卒軍屬其他ノ官吏ニ至テハ此附加刑ヲ以

テ其官ヲ剝キ宣告シテ辱ヲ加ヘ以テ之ヲ懲戒スルヲ要セス然リト雖モ依然官職ニ在ラシムヘカラス故ニ將校ニシテ剝官ヲ附加スル刑ニ該ル者アレハ別ニ宣告ヲ用ヒス其官職ヲ失ハシムルナリ或ハ曰ク汎然其他ノ官吏ト云ヘハ則チ海軍將校亦其中ニ在リ抑本條剝官ヲ以テ特ニ將校ノ刑ニ附加スルノ理ヨリシテ之ヲ謂フトキハ海軍將校ト雖モ亦陸軍將校ト同シク剝官ヲ附加シテ可ナリ政府陸海軍將校ヲ遇スル一モ異ナルナク人民ノ之ヲ視ル亦豈他ノ官吏ト同シカラシヤ而

ルニ獨リ刑法ニ於テ一般官吏ト同視ス或ハ不可ナルナカラシヤト此說理ナキニ非サル如シト雖モ是レ其本ヲ問ハスシテ而其末ヲ均クセントスルノ論ナリ何トナレハ則チ陸海軍既ニ衙門ヲ異ニシ制度亦隨テ同シカラス是ヲ以テ亦別ニ法律ヲ作ル即チ其本既ニ同シカラサルナリ其レ然リ故ニ本律總則所謂軍人軍屬將校哨兵上官等皆冠スルニ陸軍ノ字ヲ以テスルニ非ス然リト雖モ既ニ律ヲ異ニスレハ則チ其陸軍ニ止マリ海軍ニ及ハサル論ヲ待タサルナリ是ヲ以テ陸軍軍人海

軍ノ上官若クハ哨兵等ニ對シ暴行ヲ爲スモ
本律之ヲ普通人ニ對スルト同視ス既ニ其本
ヲ異ニス理然ラサルヲ得サルナリ而ルニ獨
リ本條將校ノミ之ヲ一ニセントスレハ則チ
本末紊亂立法ノ大趣旨蕩然得テ收拾スヘカ
ラサルニ至ル況ヤ剝官ヲ以テ特ニ將校ノ刑
ニ加フル所以ノモノ陸軍將校ハ陸軍ノ紀律
ヲ熟知シ而敢テ之ヲ犯シ其職任ヲ汚ス故ニ
宣告シテ其官ヲ剝キ之ヲ懲戒スル耳是ヲ以
テ下士上等卒及ヒ本律軍人ト同視スル所ノ
軍屬ト雖モ猶且之ヲ及ホサス海軍將校ヲ其

他ノ官吏ト同視スル決シテ之ヲ踈外スルニ
非ス又決シテ之ヲ輕侮スルニ非ス其懲戒法
ヲ陸軍將校ト均シクスルヲ要セサルト既ニ
其本ヲ異ニシ末ヲ均シクスルハ法理ノ與セ
サル所タルトヲ以テナリ

第三十一條 禁錮ニ處スル者ハ別ニ宣告ヲ用
ヒス其刑期間公權ヲ行フヲ停止ス

第三十二條 普通刑法第三十四條第三十五條

第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條

第四十條第四十一條第四十三條第四十四條ニ

記載スル所ノ附加刑處分ノ例ハ此刑法ニ於テ

之ヲ適用ス

○第三十四條 輕罪ノ刑ニ於テ監視ニ付シタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス監視ノ期限間公權ヲ行フコトヲ停止ス

主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタル者亦同シ
○第三十五條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其主刑ノ終ルマテ自ラ財産ヲ治ムルコトヲ禁ス

○第三十六條 流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル時ハ行政ノ處分ヲ以テ治産ノ禁ノ幾分ヲ免スルコトヲ得

○第三十七條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス各本刑ノ短期三分ノ一ニ等シキ時間監視ニ付ス

○第三十八條 輕罪ノ刑ニ附加スル監視ハ之ヲ宣告ス但各本條ニ記載スルノ外監視ニ付スルコトヲ得ス

○第三十九條 死刑及ヒ無期刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス五年間監視ニ付ス

○第四十條 監視ノ期限ハ主刑ノ終リタル日ヨリ起算ス主刑ノ期滿免除ヲ得タル時ハ其

捕ニ就キタル日ヨリ起算ス
若シ主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタル時ハ
其裁判確定ノ日ヨリ起算ス

○第四十一條 監視ニ付セラレタル者其情狀
ニ因リ行政ノ處分ヲ以テ假ニ監視ヲ免スル
コトヲ得

○第四十三條 左ニ記載シタル物件ハ宣告シ
テ官ニ沒收ス但法律規則ニ於テ別ニ沒收ノ
例ヲ定メタル者ハ各其法律規則ニ從フ
一法律ニ於テ禁制シタル物件
二犯罪ノ用ニ供シタル物件

三犯罪ニ因テ得タル物件

○第四十四條 法律ニ於テ禁制シタル物件ハ
何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒收ス犯罪ノ用ニ
供シ及ヒ犯罪ニ因テ得タル物件ハ犯人ノ所
有ニ係リ又ハ所有主ナキ時ノ外之ヲ沒收ス
ルコトヲ得ス

第三十三條 下士上等卒ハ此刑法及ヒ普通刑
法若クハ海軍刑法ニ依リ禁錮ニ處シ官職ヲ失
フト雖モ兵役ヲ免セス其失フ所ノ官職ハ主刑
終ルノ日ヨリ六月ヲ經過スルノ後行政ノ處分
ヲ以テ之ヲ復スルコトヲ得

本條ハ下士上等卒輕罪ヲ犯シ官職ヲ失フト
雖モ役限中ハ其兵役ヲ免セサルノ原則ヲ示
スモノナリ抑罪ヲ犯シ禁錮ノ刑ニ處スル者
別ニ宣告ヲ用ヒス現任官職ヲ失フ是レ普通
刑法ノ制定スル所固ヨリ其宜キナリ而軍事
犯ノ性質タル普通刑法ニ掲クル罪ト異ナル
モノアルヲ以テ將校猶劓官ヲ附加スルアリ
否ヲサルアリ況ヤ下士上等卒ニ於テヤ概
シテ官職ヲ失ハシムヘカラス然リト雖モ將
校ニ在テ劓官ヲ附加スル罪及ヒ普通刑法禁
錮ノ罪ヲ犯ス者依然官職ニ在ラシメ部下ノ

訓導ニ任スルハ軍紀ヲ害スル淺少ナラサル
ヲ以テ第三十條ヲ設ケ其官職ヲ失ハシム而
下士卒ノ身ヲ陸軍ニ委スルヤ國民報國ノ義
務ヲ盡スニ在リ故ニ初ヨリ役限ヲ定メテ之
ニ從事セシメ他ノ官吏ノ如ク進退自由ヲ得
セシメス是ヲ以テ其官職ヲ失フモ仍ホ其役
ヲ免セス兵卒トナシ豫シメ約スル所ノ役ヲ
卒ヘシムルナリ主刑終ルノ日ヨリ六月ヲ經
過スルノ後行政ノ處分ヲ以テ更ニ官職ヲ復
セシムル者ハ躬克ク戒飭シ人亦之ヲ信スル
ニ至レハ再ヒ舊職ニ復シ兵卒ノ上ニ立タシ

ムルモ素ヨリ不可ナルナキヲ以テ之ヲ法律ニ明言シ本人ヲシテ復職ノ望ミヲ絶タシメス奮發渾厲汚辱ヲ洗滌シ名譽ヲ收復セントスルノ念ヲ興起セシメントスルニ在ルナリ或ハ曰ク下士上等卒官職ヲ失フト雖モ兵役ヲ免セサルノ原則ヲ示シテ而他ノ兵卒ニ及ハス乃チ不可ナルナカラシヤ曰ク下士上等卒ハ則チ身官職ヲ帶フルヲ以テ本律第三十條普通刑法第三十三條ニ依リ其官職ヲ失ヒ併セテ兵役ヲ免スルノ嫌アリ故ニ本條ノ裁制ナカルハカラスト雖モ他ノ兵卒ノ陸軍ニ

從事スルハ官ニアラス職ニアラス即チ役ナリ故ニ其役ヲ免スルノ明文アルニ非サルヨリハ兵籍ヲ脱スルノ事ナキ論ヲ待テ而後ニ知ラサルナリ是レ本條下士上等卒ヲ掲ケテ他ノ兵卒ニ及ハサル所以ナリ
第三十四條 下士諸卒ハ此刑法及ヒ普通刑法海軍刑法ノ輕罪ヲ犯シ監視ニ付シ若クハ主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付ス可キ時ト雖モ監視ニ付セス
本條ハ前條兵役ヲ免セサルト稍其意ヲ同シクス即チ下士卒輕罪ヲ犯シ監視ニ付スヘキ

時ト雖モ總テ之ヲ附加セサルヲ云フナリ此
條ヲ設クル所以ノモノハ普通刑法第三十四
條ニ曰ク監視ニ付シタル者ハ其期限間公權
ヲ行フコトヲ停止スト抑兵役ハ則チ公權ノ一
部公權ヲ行フコトヲ停止スレハ則チ役限内ノ
者ト雖モ役ヲ執リ事ニ從フコト能ハス然ラハ
則チ前條亦幾ント效ヲ失フニ至リ實際ノ障
碍少カラサルヲ以テナリ
或ハ曰ク監視ハ再犯ヲ豫謀スル所以故ニ下
士卒ト雖モ之ヲ付シテ可ナリ而公務ニ從事
セシムルハ自ラ公權ヲ行フト異ナリ故ニ特

ニ之ヲ許スヘシ此ノ如キトキハ彼此俱ニ行
ハレテ而相悖ラサルニアラスヤ曰ク不可ナ
リ何トナレハ則チ監視ニ付シ纒カニ公務ニ
從事スルヲ許スト爲セハ則チ軍役期盡キテ
郷里ニ歸ルニ及ヒ又監視ノ本法ニ從ハサル
ヲ得ス抑兵役ハ各人報國ノ義務死生之ヲ以
テスルモノナリ既ニ公務ニ從事セシムレハ
則チ刑期中ト雖モ之ニ負ハシムルニ血税ノ
義務ヲ以テスルナリ既ニ負ハシムルニ血税
ノ義務ヲ以テス監視ニ於テ何カ有シ況ヤ軍
隊ニ於テハ起居時アリ出入制アリ規律嚴肅

以テ之ヲ檢束シ其レヲシテ天賦ノ自由ヲ伸暢スルヲ得サラシム常人監視ノ法決シテ軍隊ヲ檢束スルノ嚴ナルニ至ラス故ニ下士卒ニ在テハ縱令監視ヲ付セサルモ再犯ヲ豫防スルニ於テ監視ニ勝ルト云フモ可ナリ或ハ日ク在營下士兵卒ニ於テハ可ナリ營外散居ノ下士卒ニ至テハ檢束ノ法在營下士卒ノ如クナラス又縱令之ヲ關クモ在營下士卒ノ如ク軍隊ノ大害ヲ爲スヘカラス而ルニ彼此ヲ一ニスル乃チ不可ナルチカラシヤ日ク凡ソ戦闘ノ事タル獨リ銃ヲ執リ劔ヲ舞ハス者ア

リテ足レリト爲スニ非ス隊外下士卒ノ如キモ亦組織ノ一ニ居リ之ヲ缺ク軍隊ヲ爲サス其必需タル論ヲ待タサルナリ就中戰時ノ如キハ一日モ無カルヘカラサルモノナリ豈監視ノ本法ニ從ヒ公權ヲ停止シ軍隊ニ害ナシト云フチ得ヘケンヤ其檢束法ノ如キ在營下士卒ノ如クナラサル者アリト雖モ既ニ其レヲシテ公務ニ從事セシム日々衙門ニ候セサルチ得ヌ旅行ハ命ヲ聽カサルヲ得ヌ居ハ衙門所在ノ地ニ占メサルチ得ヌ其他軍隊ノ規律其自由ヲ束縛スル者素ヨリ多シ縱令監視

ヲ付セサルモ豈自由常人ノ如キヲ得ンヤ故
ニ監視ヲ付スルヲ要セサルナリ若シ夫レ監
視ノ本法ニ從ヘハ則チ兵役ニ從事セシムル
ヲ得ス監視ニ付シ特ニ公務ニ從事スルヲ許
セハ則チ踏マシムルニ水火ヲ以テスルナリ
既ニ水火ヲ踏マシムル者身ヲ全フシテ郷里
ニ歸レハ又之ヲ檢束スルニ監視ヲ以テス豈
悖理ノ甚シキモノニアラスヤ或ハ曰ク然リ
然ラハ則チ今日刑期盡キテ明日兵役ノ期盡
ルモノアリ又豫備後備軍ノ如キ復習ノ爲メ
召集スル者召集中ノ犯罪ハ監視ヲ免カル、

ニ至ル社會ノ危害ヲ如何曰ク此ノ如キハ絶
テ無クシテ希レニ有ル所ノモノナリ抑下士
兵卒常律禁錮ノ罪ヲ犯ヌモ役限中ハ其兵役
ヲ免セス理ヲ以テ之ヲ論スレハ豈允當ト爲
スヲ得ンヤ然リト雖モ此ノ如クナラサレハ
則チ軍隊ヲ維持スル能ハス軍隊ヲ維持スル
ハ即チ邦家ヲ維持シ社會ノ安寧ヲ保護スル
所以ナリ大ニ得ル所アレハ少シク失フ所ナ
キ能ハス是レ天下ノ通理ナリ或者ノ説ノ如
キハ所謂少シク失フ所亦己ムヲ得サルモノ
ナリ復習召集中ノ爲メニ特ニ法ヲ設クレハ

則ナ有事召集中ノ爲メニ亦別ニ制ヲ定メサルヲ得ス絶テ無クシテ而希レニ有ル所ニシテ且少シク失フモノ、爲メニ特ニ煩細ノ法ヲ設クルヲ要セサルナリ當ニ要セサルノミナラス之ヲ設ケント欲スルモ決シテ設クル能ハサルナリ是レ本條裁判法ノ無カルヘカラサル所以ノ大略ナリ

第三十五條 普通刑法第四十九條第五十條第五十一條第五十二條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六

十三條第六十四條第六十五條ニ記載スル所ノ刑期計算假出獄期滿免除復權ノ例ハ此刑法ニ於テ之ヲ適用ス

○第四十九條 刑期ヲ計算スルニ一日ト稱スルハ二十四時ヲ以テシ一月ト稱スルハ三十日ヲ以テシ一年ト稱スルハ曆ニ從フ受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス一日ニ算入シ放免ノ日ハ刑期ニ算入セス

○第五十條 刑ハ裁判確定シタル後ニ非サレハ之ヲ執行スルヲ得ス

○第五十一條 刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算

ス若シ上訴ヲ爲シタル者ハ左ノ例ニ從フ
一犯人自ラ上訴シテ其上訴正當ナル時ハ前
判宣告ノ日ヨリ起算ス若シ其上訴不當ナ
ル時ハ後判宣告ノ日ヨリ起算ス
二檢察官ノ上訴ニ係ル者ハ其上訴正當ナル
ト否トヲ分タス前判宣告ノ日ヨリ起算ス
三上訴中保釋ヲ得又ハ責付セラレタル者ハ
其日數ヲ刑期ニ算入スルヲ得ス
○第五十二條 刑期限内逃走シ再ヒ捕ニ就キ
タル者ハ其逃走ノ日數ヲ除キ前後受刑ノ日
ヲ計算ス

○第五十三條 重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル
者獄則ヲ謹守シ悔改ノ狀アル時ハ其刑期四
分ノ三ヲ經過スルノ後行政ノ處分ヲ以テ假
ニ出獄ヲ許スヲ得
無期徒刑ノ囚ハ十五年ヲ經過スルノ後亦同
シ
流刑ノ囚ハ第二十一條ニ照シ幽閉ヲ免スル
ノ外假出獄ノ例ヲ用ヒス
○第五十四條 徒刑ノ囚ハ假出獄ヲ許サル、
ト雖モ仍ホ島地ニ居住セシム
○第五十五條 假出獄ヲ許サレタル者ハ行政

ノ處分ヲ以テ治産ノ禁ノ幾分ヲ免スルコトヲ得但本刑期限内特別ニ定メタル監視ニ付ス

○第五十六條 假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ直チニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入スルコトヲ得ス

○第五十七條 刑期限内更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ假出獄ヲ許サス

○第五十八條 刑ノ執行ヲ遁レタル者法律ニ定メタル期限ヲ經過スルニ因テ期滿免除ヲ得

○第五十九條 主刑ハ左ノ年限ニ從テ期滿免

除ヲ得

一 死刑ハ三十年

二 無期徒刑ハ二十五年

三 有期徒刑ハ二十年

四 重懲役重禁獄ハ十五年

五 輕懲役輕禁獄ハ十年

六 禁錮罰金ハ七年

七 拘留科料ハ一年

○第六十條 剝奪公權停止公權及ヒ監視ハ期滿免除ヲ得ス
附加ノ罰金ハ主刑ト共ニ期滿免除ヲ得

沒收ハ五年ヲ經テ期滿免除ヲ得但禁制物ハ
期滿免除ノ限ニ在ラス

○第六十一條 期滿免除ハ刑ノ執行ヲ遁レタ
ル日ヨリ起算ス若シ捕ニ就キ再ヒ逃走シタ
ル時ハ其逃走ノ日ヨリ起算シ爾席裁判ニ係
ル時ハ其宣告ノ日ヨリ起算ス

○第六十二條 刑ノ執行ヲ遁レタル者ニ對シ
逮捕ヲ命シタル時ハ最終ノ令狀ヲ出シタル
日ヨリ期滿免除ヲ起算ス

○第六十三條 公權ヲ剝奪セラレタル者ハ主
刑ノ終リタル日ヨリ五年ヲ經過スルノ後其

情狀ニ因リ將來ノ公權ヲ復スルヲ得主刑
ノ期滿免除ヲ得タル者ハ監視ニ付シタル日
ヨリ五年ヲ經過スルノ後亦同シ

○第六十四條 大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ
直チニ復權ヲ得特赦ニ因テ免罪ヲ得タル者
ハ赦狀中記載スルニ非サレハ復權ヲ得ス
赦ニ因テ復權ヲ得タル者ハ自ラ監視ヲ免シ
タル者トス

○第六十五條 復權ハ勅裁ニ非サレハ之ヲ得
可カラス

第三章 加減例

加減例凡テ十條罪ノ性質ニ因リ加減スヘキ
刑ノ等級及ヒ一般ノ加重減輕不論罪即チ再
犯未遂犯從犯宥恕自首酌量若クハ年齢不具
等ニ由リ一事一人ニ止マラス一般ニ關スル
者及ヒ特別ノ加重減輕即チ犯者ノ身分ニ關
シ若クハ毆打創傷等一罪事ニ止ル者ニシテ
各本條ニ記載スル者等總テ刑ヲ加減スルニ
於テ要スル所ノ定例ヲ掲ク

第三十六條 此刑法ニ於テ刑ヲ加重減輕ス可
キ時ハ後ノ數條ニ掲クル所ノ例ニ照シテ加減
ス但加ヘテ死刑ニ入ルヲ得ス

本條ハ加減ニ關スル各條ノ綱領ヲ掲クル者
ナリ第三十七條以下皆本條ニ由テ生ス別ニ
解釋ヲ下スヘキノ事ナシ但加ヘテ死ニ入レ
ザル者ハ死者再ヒ蘇スヘカラス而ルニ本罪
死刑ニ非サル者ヲ加等ノ故ヲ以テ輒ク死ニ
入ル、ハ情理俱ニ允當ナラザルヲ以テナリ
第三十七條 第八十七條 第八十八條 第八十九
條 第一百二十一條ニ掲クル所ノ重罪ノ刑加減ス
可キ時ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス
一 死刑
二 無期徒刑

三有期徒刑

四重懲役

五輕懲役

本條及ヒ次條ハ重罪ノ刑加減順序ノ系統ヲ示スモノナリ本律亦罪ノ性質ニ因リ刑ヲ異ニス故ニ之ヲ加減スル其系統ニ從ハサルヲ得ス是レ本條及ヒ次條ノ無カルヘカラサル所以ナリ抑第八十七條ハ戰場ニ於テ創傷者ヲ褫奪殺傷スル者第八十八條第八十九條ハ軍用ノ工廠物件等ヲ放火毀壞スル者第一百一十一條ハ主管者不良ノ飲食物ヲ配付スル者

皆情事卑惡普通刑法常事犯ト原因ヲ同シクスル者タリ故ニ其刑他ノ軍事犯ト別異ス

第三十八條 第二編第一章第二章第三章第四章第七章第八章及ヒ第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條第八十三條第八十六條ニ掲クル所ノ重罪ノ刑加減ス可キ時ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

一死刑

二無期流刑

三有斯流刑

四重禁獄

五 輕禁獄

第二編第一章ハ則チ反亂ノ罪皆普通刑法國
事犯ノ諸條ト略ホ性質ヲ同シクスル者第二
章ハ抗命第三章ハ擅權第四章ハ辱職第七章
ハ違令第八章ハ逃亡第七十七條第七十八條
第七十九條ハ上官ニ對スル暴行第八十條第
八十一條ハ哨兵ニ對スル暴行第八十二條第
八十三條ハ軍務ヲ行フ者ニ對スル暴行皆純
然タル軍事犯タリ第八十六條ハ降俘ヲ劫奪
シ若クハ其逃走ヲ助クル者トス是レ少シク
他ノ軍事犯ト性質ヲ異ニスト雖モ亦劫盜詐

偽等ト同シカラス且第二編第一章内敵ヲ利
スルノ意ニ出ル者擬スルニ國事犯ノ刑ヲ以
テスレハ則チ此條亦之レニ倣ハサルヲ得ス
故ニ均シク之ヲ本條ノ中ニ列スルナリ

第三十九條 輕懲役ニ該ル者減輕ス可キ時ハ
二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處スルヲ以テ一
等ト爲ス

輕禁獄ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年
以下ノ輕禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス
前二條ハ重罪ノ刑輕減ノ順序ヲ示シ本條ハ
重罪ヨリ輕罪ニ下スノ序次ヲ示スモノナリ

二年以上五年以下ハ輕罪即チ禁錮ノ最重刑トス故ニ重罪ヨリ下ス者ヲ待ツニ此刑ヲ以テス懲役ヲ重禁錮ニ禁獄ヲ輕禁錮ニ下スモノハ上ニ説ク如ク罪ノ性質ニ因リ刑ノ系統ヲ異ニスルヲ以テナリ

第四十條 重罪ノ刑ヲ減輕シテ禁錮ニ處スル時將校ハ剝官ヲ附加ス

本條ハ將校重罪ヲ犯ス者ハ減輕シテ輕罪ニ處スルト雖モ皆其官ヲ剝クヲ示スモノナリ抑將校輕罪ノ刑ニ處スル者剝官ヲ附加スル者アリ否ヲサル者アリ而重罪ノ刑ヨリ下

ス者ハ其本罪既ニ重ク其レヲシテ官職ニ在ラシムヘカラス故ニ概シテ其官ヲ剝奪ス

第四十一條 禁錮ニ該ル者加重ス可キ時ハ其刑期四分ノ一ヲ加フルヲ以テ一等ト爲ス其減輕ス可キ時亦四分ノ一ヲ減スルヲ以テ一等ト爲ス

禁錮ノ刑ハ加ヘテ重罪ニ入ルヲ得ス但加ヘテ七年ニ至リ減シテ十日以下ニ降スヲ得其減シ盡ス時ト雖モ仍ホ一日以上十日以下ノ禁錮ニ處ス
若シ減輕シテ十日以下ニ處スル時ハ重禁錮ト

雖モ定役ニ服セス

本條ハ禁錮ニ該ル者ノ加減法ヲ示スモノナ
リ抑輕罪ノ刑ハ一耳故ニ其中ニ於テ加減
ノ法ヲ設ケサルヲ得ス是レ四分一ノ法由テ
來ル所ナリ○輕罪ノ刑ハ加ヘテ重罪ニ入ル
ヲ得ス其本罪既ニ輕罪ナリ而ルニ加等ノ
故ヲ以テ重罪ト爲スノ理ナシ故ニ別ニ加等
ノ方法ヲ設ク即チ七年ニ至ルヲ得ル是レナ
リ減シテ十日以下ニ云々普通刑法ト異ナリ
普通刑法ハ違警罪ノ刑アリ故ニ短期十日以
下ニ降ル者ハ直チニ違警罪ノ刑ニ處スルヲ

得ルト雖モ本律ハ其刑ナシ故ニ十日以下ニ
降ル時ト雖モ猶禁錮ニ處ス其減シ盡ス時ト
雖モ亦然リ禁錮ニ換フルノ刑ナキヲ以テ已
ムヲ得サルナリ而十日以下ノ禁錮ニ處スル
者第四十三條ニ依リ概シテ剝官ヲ附加セス
既ニ剝官ヲ附加セサルノ將校縱令重禁錮ヨ
リ降ス者ト雖モ定役ニ服セシムルハ不可ナ
リ故ニ末項ヲ設ケ以テ定役ニ服セシメス○
減シ盡ストハ譬ヘハ四月以上四年以下ノ刑
ヲ四分一ノ等ヲ減スレハ三月以上三年以下
二等ヲ減スレハ二月以上二年以下三等ヲ減

スレハ一月以上一年以下ト爲ル四等ヲ減セ
 ントスルモ該スヘキ刑ナシ是レ所謂減盡ナ
 リ減シテ十日以下ニ下ストハ禁錮ノ刑ハ十
 一日ニ起ル故ニ十一日以上三十日以下ノ刑
 ニ該ル者ハ纔ニ一等ヲ減スルモ短期ハ直チ
 ニ十日以下ニ降ル此ノ如キ時ハ十日以下ノ
 禁錮ニ處スルヲ得ルヲ謂フナリ

第四十二條 禁錮ヲ加減スルニ因テ其期限ニ
 零數ヲ生シ一日ニ滿サル者ハ之ヲ除棄ス

第四十三條 剝官ハ其主刑ヲ減輕スル時ト雖
 モ仍ホ之ヲ附加ス但十日以下ノ禁錮ニ處スル

時ハ此限ニ在ラス

本條ハ剝官ヲ附加スルト否ト總テ本刑ニ從
 ヒ本刑ノ加減ニ因テ之ヲ變セサルコトヲ示ス
 モノナリ但降シテ十日以下ニ至ル者ハ其情
 狀最モ輕キ者ナリ而ルニ猶其官ヲ剝クハ恐
 ラクハ罪刑當ヲ得ルト云フヘカラス故ニ一
 ノ特例ヲ設ケ十日以下ニ降ス者ハ本刑ノ如
 何ニ關セス其官ヲ剝カス

第四十四條 普通刑法第七十五條第七十六條
 第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第
 八十一條第八十二條第八十五條第八十九條第

九十條第九十一條第九十二條第九十四條第九十五條第九十七條第九十八條第九十九條ニ記載スル所ノ不論罪減輕再犯加重加減順序ノ例ハ此刑法ニ於テ之ヲ適用ス但此刑法ニ特例アル者ハ此限ニ在ラス

本條別ニ解釋ヲ下スヘキノ事ナシ但所謂特例ハ第六十三條第一百十六條ヲ云フ○普通刑法第八十四條第八十八條ヲ適用スレハ則チ但書ヲ要セサル如シト雖モ該二條ニ所謂各本條トハ普通刑法ノ各本條ヲ指スナリ而ルニ直チニ之ヲ適用シテ本律ノ各本條ト爲ス

○第七十五條 抗拒ス可カラサル強制ニ遇ヒ

ヲ得ス故ニ但書ヲ設ク然ラサルヲ得サルナリ

其意ニ非サルノ所爲ハ其罪ヲ論セス

天災又ハ意外ノ變ニ因リ避ク可カラサル危

難ニ遇ヒ自己若クハ親屬ノ身體ヲ防衛スルニ出タル所爲亦同シ

○第七十六條 本屬長官ノ命令ニ從ヒ其職務

ヲ以テ爲シタル者ハ其罪ヲ論セス

○第七十七條 罪ヲ犯ス意ナキノ所爲ハ其罪

ヲ論セス但法律規則ニ於テ別ニ罪ヲ定メタル者ハ此限ニ在ラス

罪ト爲ル可キ事實ヲ知ラスシテ犯シタル者
ハ其罪ヲ論セス
罪本重カル可クシテ犯ス時知ラサル者ハ其
重キニ從テ論スルヲ得ス
法律規則ヲ知ラサルヲ以テ犯スノ意ナシト
爲スヲ得ス

○第七十八條 罪ヲ犯ス時知覺精神ノ喪失ニ
因テ是非ヲ辨別セサル者ハ其罪ヲ論セス
○第七十九條 罪ヲ犯ス時十二歳ニ滿サル者
ハ其罪ヲ論セス但滿八歳以上ノ者ハ情狀ニ
因リ滿十六歳ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ

留置スルヲ得

○第八十條 罪ヲ犯ス時滿十二歳以上十六歳
ニ滿サル者ハ其所爲是非ヲ辨別シタルト否
トヲ審案シ辨別ナクシテ犯シタル時ハ其罪
ヲ論セス但情狀ニ因リ滿二十歳ニ過キサル
時間之ヲ懲治場ニ留置スルヲ得
若シ辨別アリテ犯シタル時ハ其罪ヲ宥恕シ
テ本刑ニ二等ヲ減ス
○第八十一條 罪ヲ犯ス時滿十六歳以上二十
歳ニ滿サル者ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ一等
ヲ減ス

○第八十二條 瘖啞者罪ヲ犯シタル時ハ其罪ヲ論セス但情狀ニ因リ五年ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルヲ得

○第八十五條 罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ニ一等ヲ減ス但謀殺故殺ニ係ル者ハ自首減輕ノ限ニアラス

○第八十九條 重罪輕罪違警罪ヲ分タス所犯情狀原諒ス可キ者ハ酌量シテ本刑ヲ減輕スルヲ得
法律ニ於テ本刑ヲ加重シ又ハ減輕ス可キ者

ト雖モ其酌量ス可キ時ハ仍ホ之ヲ減輕スルヲ得

○第九十條 酌量減輕ス可キ者ハ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

○第九十一條 先ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯重罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ

○第九十二條 先ニ重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯輕罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ

○第九十四條 再犯加重ハ初犯ノ裁判確定ノ後ニ非サレハ之ヲ論スルヲ得ス

○第九十五條 刑期限内再ヒ罪ヲ犯スニ因リ刑ヲ宣告シタル時ハ先ツ其定役ニ服ス可キ者ヲ執行シ定役ニ服セサル者ヲ後ニス若シ初犯再犯共ニ定役ニ服スル刑ニ該ル時又ハ共ニ定役ニ服セサル刑ニ該ル時ハ先ツ其重キ者ヲ執行ス罰金科料ニ該ル者ハ順序ニ拘ハラス各之ヲ徴收ス

○第九十七條 大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ再ヒ罪ヲ犯スト雖モ再犯ヲ以テ論スルヲ得ス

○第九十八條 三犯以上ノ者ト雖モ其加重ノ

法ハ再犯ノ例ニ同シ

○第九十九條 犯罪ノ情狀ニ因リ總則ニ照シ同時ニ本刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ左ノ順序ニ從テ其刑名ヲ定ム但從犯及ヒ未遂犯罪ノ減輕其他各本條ニ記載スル特別ノ加重減輕ハ其加減シタル者ヲ以テ本刑ト爲ス

一再犯加重

二宥恕減輕

三自首減輕

四酌量減輕

第四十五條 再犯加重ハ再ヒ此刑法ノ罪ヲ犯

スニ非サレハ之ヲ論スルヲ得ス
 本條ハ此刑法ハ素ヨリ特別ノ法律タルヲ以
 テ他ノ法律ト彼此相通シ再犯ヲ以テ其刑ヲ
 加重スルノ事ナキヲ示スモノナリ抑軍事犯
 ノ常事犯ト性質ヲ異ニスルハ上ニ説ク所ノ
 如シ而ルニ相通シテ加重ノ原因ト爲スハ特
 ニ酷ニ過ルノミナラス法理亦決シテ宜キヲ
 得ル者ニ非ス但反亂破毀放火ノ類ノ如キ一
 ノ所行ヲ以テ他ノ刑法ニ觸ル、者ハ再犯ヲ
 以テ論スヘキ者ノ如シト雖モ一ノ法律ニシ
 テ或ハ他ノ法律ト相通シ再犯ヲ以テ論スル

者ト否ラサル者トノ異同アル亦決シテ法理
 ニ適スト言フヘカラス且特ニ軍事犯ト爲シ
 軍律ニ掲クル者ハ普通刑法ニ比スレハ其刑
 必ス重シ故ニ必スシモ彼此相通シ再犯加重
 ノ例ヲ用ヒ之ヲ懲戒スルヲ要セサルナリ普
 通刑法第九十六條蓋シ又此意ニ外ナラサル
 ナリ但普通刑法冠スルニ陸海軍裁判所ニ於
 テ判決ヲ經タル者云々ノ句ヲ以テス裁判所
 ノ權ト刑法ノ權トヲ混同シ語病アルカ如シ
 何トナレハ則チ彼此相通シ再犯ヲ以テ論セ
 サルハ罪事ノ性質異ナルニ職山シ決シテ裁

判所ノ陸タリ海タリ地方タルニ因リ異同アルノ理ナキヲ以テナリ常人陸海軍裁判所ニ於テ裁判スルヲアリ軍人地方裁判所ニ於テ裁判スル時アリ而ルニ普通刑法ノ字句ニ拘ハルトキハ地方裁判所ニ於テ裁判スルトキハ第九十六條ノ限ニ在ラサル如ク解スルモ不可ナルナキ如シ然リト雖モ是レ豈立法者ノ意ナラシヤ宜シク文ヲ以テ意ヲ害スルナクシテ可ナリ蓋シ本條ノ如ク記シ全ク病ナキヲ覺ユ

第四章 數罪俱發

本章ハ二罪以上俱ニ發シ及ヒ其前後發覺スル時ニ當リ之ヲ處分スルノ例ヲ掲ク

第四十六條 二罪以上俱ニ發スル時若クハ一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經餘罪後ニ發スル時ハ普通刑法第百條第百一條第百二條第百三條ニ記載スル所ノ數罪俱發ノ例ヲ適用ス但此刑法剝官ヲ附加セサル禁錮ノ罪ト剝官ヲ附加スル禁錮及ヒ海軍刑法剝官ヲ附加スル禁錮若クハ普通刑法ノ禁錮ノ罪ト俱ニ發シ剝官ヲ附加セサル禁錮ニ處スル時ト雖モ將校ハ仍ホ剝官ヲ附加シ下士上等卒軍屬其他ノ官吏ハ別ニ宣告

ヲ用ヒス其官職ヲ失フ

本條ハ二罪以上俱ニ發スル時ハ一ノ重キニ從テ其刑ヲ科スルノ原則及ヒ本律將校ノ刑ニ剝官ノ附加刑アルヨリ生スル所ノ一ノ變例ヲ示ス者ナリ抑數罪併ヒ科シ若クハ重キニ從テ科スル其得失當否學者ノ噴々止マリル所聞ク如キハ歐洲二三ノ國ニ於テモ併科ノ法ヲ取ルモノアリト純ラ理ヲ以テ之ヲ論スルトキハ數罪一ノ重キニ從フヲ以テ他罪ヲ消滅セシメ犯者僥倖ヲ得ルニ至ルノ理ナキヲ以テ併ヒ科スルヲ以テ允當ト爲スヘキ

如シト雖モ之ヲ實際ニ徵スルニ死刑無期徒刑ノ如キハ素ヨリ並ヒ科スルヲ得ス其之ヲ科スルヲ得ルノ刑ト雖モ重罪ノ刑ノ如キハ殆ント無期徒刑ト其效ヲ等ウスルニ及ヒ輕罪ト雖モ延テ數十年ノ久シキニ至ル者アリ且其レヲシテ一罪輒々罰シ數罪ヲ犯スニ至ラシメスシテ遂ニ此ニ至ラシムルモノハ行政司法ノ警察ニ任スル者亦慙色ナキ能ハス而ルニ一ニ罪ヲ犯者ニ歸シ其發覺スルニ至リ各自併科以テ之ヲ懲戒ス特ニ酷ニ過ルノミナラス懲戒其度ニ適スルト云フヲ得ス加之我

舊法亦重キニ從フノ法ヲ用フ是ヲ以テ普通
 刑法亦之ヲ以テ原則ト爲ス故ニ本律亦之レ
 ニ從フナリ而其間一ノ變例アリ即チ但以下
 ニ記スル所是レナリ抑本律及ヒ海軍刑法俱
 ニ禁錮ノ刑ニ處スル將校剝官ヲ附加スルア
 リ否ヲサルアリ而其二罪以上俱ニ發スル時
 ニ當リ重キヲ撰テ之ヲ科スルハ一ニ判者ノ
 權内ニ在リ故ニ剝官ヲ附加スル禁錮ヲ舍テ
 之ヲ附加セサル禁錮ニ處スルノ時ナキヲ保
 ツアタハス此時ニ當リ現ニ受クル所ノ刑縱
 令剝官ヲ附加セスト雖モ他ニ官ヲ剝カル、

ノ罪ヲ併セ犯ス者ナシテ官職ニ在ラシムヘ
 カラス普通刑法ヲ併ヒ犯ス時亦然リ夫レ普
 通刑法輕罪實決ノ刑ニ處スル者ハ輕重ヲ問
 ハス皆其官職ヲ失フナリ既ニ官職ヲ失フノ
 罪ヲ犯シ偶マ軍律ニ併發シ其剝官ヲ附加セ
 サル刑ニ處セラル、ヲ以テ僥倖官職ヲ保ツ
 ヲ得セシムルノ理ナキナリ故ニ此變例ヲ設
 ケ鈞衡ヲ失ハサラシムルナリ

○第百條 重罪輕罪ヲ犯シ未タ判決ヲ經スニ
 罪以上俱ニ發シタル時ハ一ノ重キニ從テ處
 斷ス

重罪ノ刑ハ刑期ノ長キ者ヲ以テ重ト爲シ刑期ノ等シキ者ハ定役アル者ヲ以テ重ト爲ス
輕罪ノ刑ハ其所犯情狀最重キ者ニ從テ處斷ス

○第一百一條 違警罪二罪以上俱ニ發シタル時ハ各其刑ヲ科ス若シ重罪又ハ輕罪ト俱ニ發シタル時ハ一ノ重キニ從フ

○第一百二條 一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發シ其輕ク若クハ等シキ者ハ之ヲ論セス其重キ者ハ更ニ之ヲ論シ前發ノ刑ヲ以テ後發ノ刑ニ通算ス但前發ノ刑罰金科料ニ

該リ已ニ納完シタル者ハ第二十七條ノ例ニ照シ折算シテ後發ノ刑期ニ通算ス

若シ前發ノ罪ヲ判決スル時未タ發セサル罪再犯ノ罪ト俱ニ發シタル者ハ其再犯ト比較シ一ノ重キニ從ヒ前發ノ刑ヲ通算セス

○第一百三條 數罪俱ニ發シ一ノ重キニ從フ時ト雖モ其沒收及ヒ徵償ノ處分ハ各本法ニ從フ

第五章 數人共犯

本章ハ數人共謀罪ヲ犯ス者アルニ當リ其情事ノ如何ニ因リ正犯ト爲シ若クハ從犯ト爲

スハ年者ノ區別及ヒ其處分ノ例ヲ示スモノナリ

第四十七條 軍人二人以上共ニ此刑法ノ罪ヲ犯ス時ハ普通刑法第一百四條第一百五條第一百六條第一百七條第一百八條第一百九條第一百十條ニ記載スル所ノ數人共犯ノ例ヲ適用ス但第六十七條第七十七條第七十八條第八十一條第八十三條第八十四條第八十五條第一百十九條ニ掲クル所ノ罪ヲ論スル時從犯ハ首魁ニ非サル正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス

本條ハ二人以上此刑法ノ罪ヲ犯ス時其正犯

從犯タルノ別ヲ定メ且之ヲ處分スルノ例ヲ示スモノナリ抑正犯從犯ヲ區分シ若クハ教唆者ヲ正犯ト爲シ又ハ正犯ノ身分犯人ノ多數ニ因リ加重處分ノ例等ニ至テハ軍律素ヨリ普通刑法ト異ニスヘキノ理ナシト雖モ亦一ノ變例アリ即チ但書謂フ所ノモノ是レナリ第六十七條以下列記スル所皆本律特ニ首魁ト其他ノ者トヲ分テ刑ヲ科スルノ條トス首魁ト其他ノ者ト刑ヲ異ニスト雖モ等シク正犯タリ故ニ之ヲ教唆スル者各本犯ト同刑ニ處スル固ヨリ論ヲ待タスト雖モ從犯ニ至テ

ハ然ルヲ得サルモノアリ何トナレハ則チ若
シ普通ノ例ニ從ヒ從犯ハ總テ正犯ノ刑ニ一
等ヲ減スト爲セハ則チ首魁ノ從犯ハ首魁ノ
刑ニ一等ヲ減シ處分セサルヲ得ス此ノ如キ
トキハ則チ首魁ニ非サル正犯即チ其他ノ者
ノ刑ニ照シ輕重倒置權衡當ヲ失フニ至ル譬
ヘハ二人以上上官ニ對スル暴行ノ罪ヲ犯ス
首魁ハ重禁獄器具ヲ給與シ其他豫備ノ所爲
ヲ以テ之ヲ幫助スル者ハ一等ヲ減シ輕禁獄
トス而首魁ト共ニ現ニ其罪ヲ犯ス者ハ一年
以上五年以下ノ輕禁錮トス抑豫備ノ所爲チ

以テ之ヲ助クル者ハ重ク自ラ力ヲ出シ共ニ
犯ス者ハ輕シト爲スノ理ハ萬之レアルヘカ
ラサルナリ故ニ一ノ變例ヲ設ケ從犯ハ縱令
首魁ノ從ト雖モ首魁ニ非サル正犯ノ刑ニ照
シテ減等スルナリ
本律司令官將校哨兵等特ニ其罪ヲ定ムル者
ハ之ト官職ヲ同クスル者ニ非サルヨリハ縱
令教唆スル者アリ幫助スル者アルモ數人共
犯ノ例ニ從ヒ處分スルニアラサルナリ譬ヘ
ハ司令官第六十九條第七十條等ノ罪ヲ犯ス
ニ當リ他ノ將校下士兵卒等之ヲ教唆シ若ク

ハ幫助スルアルモ其刑司令官ニ止メテ其他ニ及ホサヌ是レ其特殊ノ責任ニ因リ組織スルノ罪ヲ他ニ及ホスノ理ナキヲ以テナリ普通刑法特ニ官吏ノ罪ヲ掲クル者蓋シ亦此意ニ外ナラサルナリ

○第四百四條 二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ皆正犯ト爲シ各自ニ其刑ヲ科ス

○第四百五條 人ヲ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者ハ亦正犯ト爲ス

○第四百六條 正犯ノ身分ニ因リ別ニ刑ヲ加重ス可キ時ハ他ノ正犯從犯及ヒ教唆者ニ及ホ

ス可キ時得ス

○第四百七條 犯人ノ多數ニ因リ刑ヲ加重ス可キ時ハ教唆者ヲ算入シテ多數ト爲ス可キ時得ス

○第四百八條 事ヲ指定シテ犯罪ヲ教唆スルニ當リ犯人教唆ニ乘シ其指定シタル以外ノ罪ヲ犯シ又ハ其現ニ行フ所ノ方法教唆者ノ指シタル所ト殊ナル時ハ左ノ例ニ照シテ教唆者ヲ處斷ス
一所犯教唆シタル罪ヨリ重キ時ハ止タ其指定シタル罪ニ從テ刑ヲ科ス

二所犯教唆シタル罪ヨリ輕キ時ハ現ニ行フ所ノ罪ニ從テ刑ヲ科ス

○第百九條 重罪輕罪ヲ犯ス_トテ知テ器具ヲ給與シ又ハ誘導指示シ其他豫備ノ所爲ヲ以テ正犯ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシメタル者ハ從犯ト爲シ正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス但正犯現ニ行フ所ノ罪從犯ノ知ル所ヨリ重キ時ハ止タ其知ル所ノ罪ニ照シ一等ヲ減ス

○第百十條 身分ニ因リ刑ヲ加重ス可キ者從犯ト爲ル時ハ其重キニ從テ一等ヲ減ス
正犯ノ身分ニ因リ刑ヲ減免ス可キ時ト雖モ

從犯ノ刑ハ其輕キニ從テ減免スル_トヲ得ス

第四十八條 軍人ト軍人ニ非サル者ト共犯ニ係ル時軍人ハ此刑法ニ依リ處斷スト雖モ軍人ニ非サル者ハ普通刑法ニ照シテ其罪ヲ論ス但第十二條第十三條ニ依リ此刑法ヲ以テ處斷ス可キ者ハ此限ニ在ラス

本條ハ軍人軍屬常人ト共ニ軍律ヲ犯ス時ノ處分ノ例ヲ示ス者ナリ軍人ハ軍律ニ常人ハ普通刑法ニ問スル論ヲ待タス此條ニ要スル所ナキ如シト雖モ二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ皆正犯ト爲シ各自ニ其刑ヲ科スルノ

原則ニ依リ或ハ俱ニ本律ヲ以テ處斷スルノ
嫌アリ又此條ナキ時ハ從犯減等法ニ於テ頗
ル疑議ニ涉ルモノアリ譬ヘハ軍人第七十九
條上官ニ對シ持兇器暴行ヲ爲スニ當リ常人
之レニ貸スニ兇器ヲ以テシ上官遂ニ癡疾ニ
至ル軍人ハ第七十九條ニ依リ死刑トス而常
人之レニ依テ減等スルヲ得ス乃チ空中樓閣
普通刑法人ヲ毆打シテ癡疾ニ致スノ犯者ヲ
設ケ之レニ照シ減等スルナリ是レ此條ヲ設
ケ之レヲ詳ニスル所以ノ要領ナリ但以下ニ
掲クル所ノ數條ハ常人ト雖モ軍律ニ間スル

ノ犯罪タリ故ニ軍民共犯ニ係ル時ハ此刑法
ニ依ル固ヨリ論ヲ待タサルナリ

第六章 未遂犯罪

本章ハ罪ヲ犯サレトシテ謀リ又ハ豫備ヲ爲シ
若クハ行フテ遂ケサル者アルニ方リ其處分
ノ例ヲ示ス者ナリ

第四十九條 此刑法ノ罪ヲ犯サントシテ未タ
遂ケサル者ハ普通刑法第百十一條第百十二條第
百十三條ニ記載スル所ノ未遂犯罪ノ例ヲ適用ス
未遂犯罪分ツテ二ト爲ス即チ普通刑法第百
十一條第百十二條ニ記スル所其第百十一條

ハ罪ヲ犯サンコトヲ謀リ若クハ其豫備ヲ爲ス者タリ本律之ヲ罪トスル者反亂罪耳抑陰謀ニ至テハ其之ヲ心ニ謀リ或ハ之ヲ人ニ謀ルモ未タ行爲ノ形跡ニ見ハル、者ニ非ス之ヲ罪トスルノ普通法理ニ適セサルハ固ヨリ論ヲ待タス然リト雖モ反亂罪ノ如キハ其事重大其害測ルヘカラス而之ヲ謀ル亦一人一己ノ思想ニ止ラス共謀數千萬ノ多キニ至ルアリ故ニ力メテ之ヲ未萌ニ阻遏シ社會ノ安寧ヲ保護セサルヘカラス陰謀且然リ況ヤ豫備ニ至ルモノチヤ是レ本律反亂罪豫備陰謀モ

亦之ヲ罰スル所以ナリ普通刑法内亂ニ關スル罪亦之ヲ罪トス蓋シ此意ニ外ナラス但普通刑法ハ内亂ニ關スル罪ニ止メ外患ニ及ハス本律ハ内外ヲ分タス是レ其異ナル所ナリ○豫備ニ至ル者ハ稍形跡ニ顯ハル獨リ反亂罪ニ止ムヘカラサルモノ、如シト雖モ未タ手ヲ犯罪事件ニ下スニ至ラス即チ謀殺者ノ刀ヲ買ヒ放火者ノ煤火具ヲ購フ如キ果シテ其事ヲ行フニ至ルヤ否ヤ又果シテ其用ニ供スルノ意タルヤ否ヤ皆是レ他人意中ノ事他ヨリ忖度シ易カラサルモノナリ而ルニ之ヲ

以テ罪ト爲セハ則チ刀ヲ買フ者煤火具ヲ購
フ者檢察官爲メニ目ヲ注セサルヲ得サルニ
至ル夫レ此ノ如クナル時ハ摘發鈎距ノ弊或
ハ無辜辭屈シ冤ヲ吞ムノ事ナキヲ保ツ能ハ
ス有罪者偶マ逸スルアルモ無辜冤ヲ吞ムノ
事無カラシムルニ如カス況ヤ社會未タ害ヲ
被ラサルニ於テチヤ是レ豫備不罰ヲ以テ普
通ノ法理ト爲ス所以ナリ○第十二條ニ記ス
ル所ニ至テハ既ニ其事ヲ行ヒ意外ノ故障外
錯ニ因リ意ヲ達セサル者タリ此ノ如キハ其
意其行既ニ其罪ヲ組織スト謂フヘシ然リト

雖モ全然其意ヲ遂クル者ニ比スレハ社會ノ
害ヲ蒙ル素ヨリ差アリ故ニ重罪ハ概シテ一
二等ヲ減シ輕罪ハ各本條別ニ記載スルニ非
サレハ其罪ヲ論セス是レ皆普通ノ原則軍律
異ニスヘキノ理ナシ故ニ一ニ普通刑法ト同
シクス抑等シク是レ輕罪ニシテ各條之ヲ記
載シ以テ有罪無罪ヲ分ツモノハ何ソヤ之ヲ
非トスル者ハ既ニ其事ヲ行ヒ犯跡顯然即チ
第九十二條第百十四條ニ掲クル所ノ如キ是
レナリ其罪ト爲サル者ハ實際得テ罰スル
能ハサル者アリ害ノ來ル豫シメ測ルヘカラ

ス刑豫シメ定ムヘカラサル者アリ之ヲ行フ
モ果シテ意ヲ違シ得ルヤ否ヤ知ルヘカラサ
ル者アリ讀者各條ニ就キ熟讀玩味スレハ則
チ自ラ瞭然タラン

○第百十一條 罪ヲ犯サントシテ謀リ又ハ其豫
備ヲ爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル者ハ本
條別ニ刑名ヲ記載スルニ非サレハ其刑ヲ科
セス

○第百十二條 罪ヲ犯サントシテ已ニ其事ヲ
行フト雖モ犯人意外ノ障礙若クハ舛錯ニ因
リ未タ遂ケサル時ハ已ニ遂ケタル者ノ刑ニ

一等又ハ二等ヲ減ス

○第百十三條 重罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケ
サル者ハ前條ノ例ニ照シテ處斷ス
輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ本條
別ニ記載スルニ非サレハ前條ノ例ニ照シテ
處斷スルヲ得ス
違警罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ其
罪ヲ論セス

陸軍刑法釋義卷之二終

